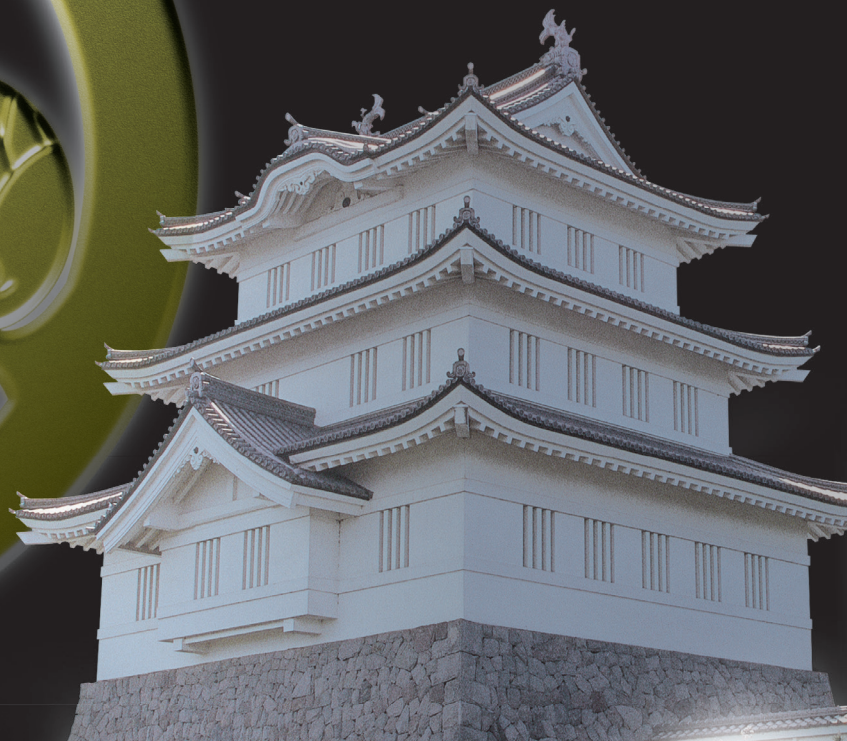
OSHI GOYUKAI



忍藩から現代へ
人と発展

論語・大学・孝経
素読にはげむ子どもたち

No.66
平成21年12月1日

忍郷友会々報

松平忠寿翁書

忍郷友会会報　第六十六号　目次

2010年に向けて……松平　忠昌……1
平成21年度定時総会報告……小山　博……2
平成20年度事業報告……事務局……4
収支決算書・貸借対照表……事務局……7
忍郷友会役員名簿……事務局……8
第24回浮き城のまち行田
「少年の主張大会」……清水　龍男……9
忍郷友会会長賞作品①……内田　瑠奈……9
忍郷友会会長賞作品②……斎藤　紘平……10
忍郷友会会長賞作品③……柳川　愛子……11
第九回　三端懇話会……福島　伸悦……12
読書推進運動について……大野　年司……14
進脩塾活動について……田代　敬二……15
第八回全国藩校サミット長岡大会……岩崎　安裕……18
平成21年度法人会員名簿……事務局……20
平成21年度事業行事経過……事務局……21
わたしの忍藩人物事典刊行への取組み…若松　良一……24
〝全国区〟の行田の民俗……大友　務……24
忍郷友会百年を過ぎ新たに思う……倉田　耕一……25
感謝と近況……古市　實……26
俳句・短歌・川柳……事務局……28
御名刺掲載欄……事務局……31
編集後記……黒渕　陽夫……34

※表紙……全国生涯学習フェスティバル〝まなびピア埼玉2009〟に出展したポスターデザインです。

2010年に向けて

財団法人忍郷友会
会長　松平忠昌

本部事務局を行田に移転してから三年が経ち、「石の上にも三年」と諺にあるように、活動の拠点としての落ち着きが出て来て、順調に各事業が展開されていることは、ご同慶の至りであります。これも偏に会員各位のご協力と関係者の献身的なご尽力の賜物と感謝する次第であります。

行田を中心とする忍郷友会としての活動を支えるために、副会長制を導入し、更に昨年来「運営会議」を設置して事務局長を中心に各事業の活動状況を把握することに努めており、今後の活動の方向性を議論しております。これからの当会の活動を展開する中での懸案は、東京支部の拡充を含めた会員の増強は急務でありますので、皆様にもご協力願い、会員の勧誘には注力していく所存であります。

明治三十八年（一九〇五年）に発足致しました当会は、全国でも比類のない長寿の財団法人であり、先輩諸氏を始めとする会員各位の揺ぎの無い郷土愛と献身的な奉仕の精神に支えられ、活動の柱を国や行田の宝である青少年の教育を支援する事に置き、人材育成の為の草の根運動を展開している所であります。

「三端懇話会」については、財源の観点から十年目の節目の平成二十二年までの開催となりますが、「少年の主張大会」、「読書推進」、及び「進脩塾」（素読教室、論語講座）の事業は引続き継続して実施していくことにしています。

一方、当会を取り巻く環境は大きな変化を迎えており、課題としては、法令改正に伴う当会「財団法人」の見直しと財源の確保があげられます。政治体制の激変があり、法人の徹底的な見直しが推進されることが見込まれるために、行政上の管理監督官庁「文部科学省」を埼玉県「教育委員会」に帰属すべき法人として、移管に関する指導が強化される可能性があります。

また、会員の高齢化も今後の事業継続の上で見過ごす事の出来ない要因です。これらの懸案に取り組む為にも、各位のご理解とご支援・ご鞭撻は不可欠なものと言えますので、宜しくお願い申し上げます。

国内に目を転じて見ますと、政局は鳩山政権に交代して、政策運営も混乱・混迷を深めているように見受けます。

教育に関しても政策の抜本的な改革があり、その在り方が見直されていますが、青少年の教育・人材の育成は普遍的な命題でありますので、教育支援を当会の事業活動の柱として継続して参る所存です。

海外では「テロ」、「北朝鮮問題」、「原油の高騰」、等々があり、日本の政権交代から齎されている外交や経済環境は予断を許さない状況にあります。また、米国のオバマ大統領就任もあり、世界はもとより、日米共に分岐点を迎えており、これからの三～四年は重要な時期になると考えます。二〇一〇年を第一歩として捕らえ、この様な変化・変革の時こそ「教育への支援」を軸に、我々は自分達の「出来ること」を着実に推進していかなければならないと思っています。

「違いの判る人間を育成する教育への支援」を軸に置いて、引続き行田から今後の日本や世界を担う人材を輩出させる事を目指して事業を推進して参りますので、宜しくご指導・ご鞭撻賜りますようにお願い申し上げます。

平成二十一年度 定時総会報告

事務局長　小山　博

平成二十一年六月二十八日(日)午後二時より、行田市内アイトピアにおいて総会及び懇親会を開催した。総会に先立ち評議員会、・理事会を開き、評議員五十五名、（内委任状三十八名）理事二十名（内委任状二名）が出席、両会議とも成立した。

会議は寄附行為第十七条二項の規定に基づき、松平議長により議事が進行された。審議に先立ち評議員会議事録署名人に木暮照子氏、井上啓子氏、理事会議事録署名人に田代敬二氏、黒渕陽夫氏を指名、それぞれ議事録署名人を受託した。

審議に入り、「第一号議案、平成二十年度事業報告」「平成二十年度収支決算書報告」について、小山理事（事務局長）が内容を説明、引続き加藤力也氏が監事を代表して監査報告がなされ、松平議長が承認について諮り審議の結果、全員異議なく本案はそれぞれ可決承認された。以上をもって会議は終了し、議長は閉会を宣言した。

休憩を挟み、午後三時三十分より「総会」が山本憲作理事の司会により開会された。総会に先立ち、松平会長より物故会員のご冥福をお祈りしたいという発言があり、会員一同起立し、心より黙祷を捧げた。（物故会員氏名は事業報告書に記載）

会議は松平会長が議長席に着き、議事が進められた。議長の指名により、小山理事（事務局長）から同日開催された評議員会、理事会の審議内容、承認事項等会務報告がなされ、引続き各事業担当委員長より、それぞれの事業の報告が配付資料に基づき、説明された。

このあと来賓として行田市教育長丸山綱男様、埼玉県議会議員鈴木聖二様、行田商工会議所鈴木秀憲様よりお祝辞を頂いた。

第二部　記念講演会（午後四時三〇分開会）

「棋士の思考法から ひも解く〝直感力〟」

講師　女流プロ棋士　矢内 理絵子（行田市在住）

中学二年で女流棋士となった矢内さんは現在二十九才、二十六才で女流名人、二十八才で初代女王、二冠となった才媛である。著者に「矢内理絵子の振り飛車破り」茂木健一郎との共著で「女脳、ひらめきと勝負強さの秘密」等がある。語り口は明解で耳の遠い私にも心地良い響きであった。講演の中からの記憶をいくつか紹介しましょう。

一、勉強は貯金と同じ

一、友達と二時間遊んだら、その時間をどこから生み出すか。睡眠から取るしかない。

一、自由な時間が多いので遊ぼうと

思えばいくらでも遊べる。
一、だから自己管理をどうするか。
　実力の世界だから。
一、小学四年生の時集中力を学ぶ。
　目標を立てる事で勇気が出る。
一、直感力とひらめきと記憶は七十
　パーセント正しい。そして迷っ
　た時の決断力。
一、直感で決めて、後から理由づけ
　をする。
一、決断に至るまでの努力が大切
一、反省をして忘れる。前を向いて
　歩く。

なるほど。七十五才の私は己の歩んだ人生を顧みながら、一流の女性に勇気をもらった気がして大変楽しかった。

自著の本にサインをされる矢内棋士

第三部　懇親会

喇叭節の唄と踊りで盛り上がる

懇親会は会場を変え、午後六時より碓井勝也理事の司会により開催された。江草忠敬理事の開会の挨拶に続き、来賓として大河原梅夫行田市議会議長、㈶忍郷友会特別会員忍藩主阿部家二十二代当主、阿部正靖様よりお祝いの挨拶を頂いた。その後

新入会員の紹介と続き、喇叭節の唄と踊りが披露された。

この喇叭節の替え歌の歌詞は、忍町初代町長古市直之進の作で田代敬二理事により発見されたもので、それの後半部分を田代氏が補作したものである。

井上啓子先生の風格ある三味線に導かれて、五名の皆さんが踊りを披露して喝采を浴びた。なお、この踊りも市内の舞踊家大島幸子先生の振り付けであり、故人古市直之進様もあの世でさぞ喜んで下さっていると決め込んでいるのは私だけだろうか。

そして乾杯である。直之進の孫古市實理事が大阪から駆付けて乾杯の音頭をとり、にぎにぎしく懇親会となった。

アトラクションは昨年の総会で大好評だった「原正夫とラテンジャズ」で会場は大いに盛り上がった。

原正夫とラテンジャズの演奏

有斐閣 Insight
「知る」から「識る」へ
学問の醍醐味がここに第一人者が時代を照射する
四六判 各1575円
外　交
多文明時代の対話と交渉　細谷雄一 著
福祉政治
日本の生活保障とデモクラシー　宮本太郎 著
社会的排除
参加の欠如・不確かな帰属　岩田正美 著
グローバリゼーション
現代はいかなる時代なのか　正村俊之 著
代表取締役社長 江草貞治
株式会社 有斐閣
東京都千代田区神田神保町2-17
代表 03-3264-1312　FAX03-3264-5030
since1877
（忍郷友会10/9〆）

平成二十年度 事業報告

1、総会

①定時総会開催

（理事・評議員会、講演会・懇親会）

日　時　平成二十年六月二十一日㈯
　　参加者八十四名
　　午後二時〇〇分～
　　午後八時〇〇分

会　場　行田市・ベルヴィアイトピア

来　賓
　　衆議院議員　小島　敏男　様
　　埼玉県議会議員　鈴木　聖二　様
　　行田市長　工藤　正司　様
　　行田市議会副議長　新井　孝義　様
　　行田市教育委員会教育長　丸山　綱男　様
　　行田商工会議所名誉会頭　清水　孝男　様
　　行田商工会議所会頭　鈴木　秀憲　様
　　行田商工会議所副会頭　川辺　秀夫　様
　　行田ロータリークラブ会長　小林　一好　様
　　行田さくらロータリークラブ会長　矢澤　大和　様
　　行田ライオンズクラブ会長　野口　昭夫　様

松平忠昌議長より平成十九年度の事業および決算、監査について報告があった

記念講演「人生の心得」
　　―父安岡正篤に学ぶ―
　　講師　安岡　正泰　様
　　㈶郷学研修所・
　　安岡正篤記念館　理事長

懇親会・アトラクション
「原正夫ジャズピアノの世界」
　　～アメリカの響き～

②定時総会開催

（理事会・評議員会・賀正会）

日　時　平成二十一年一月二十四日㈯
参加者五十二名
会　場　霞会館（霞ヶ関ビル三十四階）

来　賓
　　行田市副市長　羽鳥　利明　様
　　行田市教育委員会教育長　丸山　綱男　様
　　行田市商工会議所会頭　鈴木　秀憲　様
　　行田市教育委員会委員長　保泉　欣嗣　様
　　旧忍藩々主　阿部　正靖　様

松平忠昌議長より平成二十一年度の事業計画および予算について報告があった

懇親会・アトラクション
「Ｆｕｒｕｍｉ　ｍａｙａ
　　ジャズコンサート」

2、役員会

①理事・監事合同準備会

日　時　平成二十年四月二十三日㈬
　　午後三時～午後五時三十分
会　場　行田本部事務所　会議室

審議事項
1　平成十九年度事業報告書(案)について審議
2　平成十九年度決算報告書(案)について審議
3　平成十九年度の事業・決算に係わる監査
4　役員改選(案)について
5　平成二十年六月二十一日㈯総会開催について
6　その他

定時総会日に開催される理事会・評議員会に提案する審議事項並びに総会報告事項の決定、総会の運営進行等について打ち合わせ

②理事会、評議員会

日　時　平成二十年六月二十一日㈯
　　午後二時〇〇分～三時三〇分
会　場　ベルヴィアイトピア

審議事項
1　平成十九年度の事業報告がなされ審議・承認
2　平成十九年度の決算報告がな

され審議・承認
3　平成十九年度の事業に係わる監査について報告され承認
4　役員改選について審議・承認
5　運営会議設置について審議・承認
6　その他

③理事・監事合同準備会

日　時　平成二十年十一月十九日(水)
会　場　行田市・本部事務所
審議事項
1平成二十一年度（平成二十一年四月一日～平成二十二年三月三十一日）事業計画(案)について
ア「進脩塾」事業計画(案)について審議
イ「浮城のまち行田少年の主張大会」事業計画(案)について審議
ウ「三端懇話会」事業計画(案)について審議
エ「読書推進実行委員会」事業計画(案)について審議
2平成二十一年度（平成二十一年四月一日～平成二十二年三月三十一日）予算(案)について審議
3平成二十一年六月の理事会・評議員会、総会の日程について
小山　博事務局長より、平成二十一年六月二十八日(日)に開催したいとの提案があり審議
4その他

④理事会、評議員会

日　時　平成二十一年一月二十四日(土)
午後三時〇〇分～
午後三時五〇分
会　場　霞会館(霞ヶ関ビル三十四階)
審議事項
1平成二十一年度事業計画(案)について審議・承認
2平成二十一年度収支予算(案)について審議・承認
3平成二十一年六月の定時総会の日程について
4公益法人について
5その他　報告事項

3、教育奨励事業

①進脩塾活動

公開講座
第5回「漢字文化講演会」と「素読教室発表会」
日　時　平成二十年八月二十八日(土)
会　場　行田商工センター
講　師　土屋　秀宇 先生
「漢字っておもしろいな！」
受講者　六十五名

定例講座
四　月　「論語」　荒井　桂 先生
五　月　「論語」　荒井　桂 先生
六　月　「漢字文化講演会」
土屋秀宇 先生
八　月　「孟子」　荒井　桂 先生
九　月　「孟子」　荒井　桂 先生
十　月　「孟子」　荒井　桂 先生
十一月　「孟子」　荒井　桂 先生
二　月　「孟子」　荒井　桂 先生
三　月　「孟子」　荒井　桂 先生
※行田ケーブルテレビにて放映
（内容）進脩塾の目的、講義、受講者の感想、今日の論語から

素読教室の開催
日　時　毎月第一、第二、第三土曜日
午前九時三十分～十時四十分
場　所　行田市郷土博物館 講座室
対　象　行田市内低学年児童（四歳～八歳迄）二十八名
講　師　田代敬二、水野孝市、小林康男先生
論語・漢詩・俳句の学習

②「第二十三回・浮城のまち行田少年の主張大会」優秀者表彰

日　時　平成二十年七月二十六日(土)
会　場　行田市教育文化センター「みらい」ホール
発表者　市内小・中学校児童・生徒、父兄等二五〇名参加
松平 忠昌 会長より記念品を贈呈する

③第八回「三端懇話会」

日　時　平成二十年八月二十七日(水)
会　場　霞会館(霞ヶ関ビル三十四階)
講　師　丸山　晃 先生
聴講者　行田市内の中・高校生二十名参加
本会から、松平忠昌会長、渡辺栄一理事、小山事務局長、山本憲作理事、矢澤大和理事、木暮照子評議員、井上啓子評議員、遠藤初枝事務局員が出席された。

④読書推進運動

読み聞かせボランティアスキルアップ講座と交流会開催
日　時　平成二十一年二月八日(日)
午後一時三十分～四時
場　所　行田市教育文化センター「みらい」第一学習室
講　師　代田みち子先生（科学読物研究会運営委員・国立やまびこ文庫主宰）
～科学絵本と楽しく科学あそび～
受講者　五十八名

・委員会開催
日　時　平成二十年八月二十二日(金)
午後二時～四時（第一回）

九月三十日㈫
午後二時～四時（第二回）
十一月 六日㈭
午後二時～四時（第三回）
会　場　本部事務所　会議室
議　題　一）本年度事業について
二）読み聞かせボランティア交流会について
三）先進地視察について

4、運営会議開催

第一回
日　時　平成二十年七月十五日㈫
午後六時～七時三十分
場　所　本部会議室
議　題　今後の事業推進について

第二回
日　時　平成二十年九月十六日㈫
午後五時三十分～八時
場　所　本部会議室
議　題　一）公益法人について
二）賀正会について
三）二十一年度以降の事業について

第三回
日　時　平成二十一年一月九日㈮
午後五時三十分～七時
場　所　本部会議室
議　題　一）賀正会参加者勧誘について
二）その他確認事項

5、慶　弔

①叙勲・褒章受章
端宝双光章　大須賀伊司郎 氏
旭日小綬章　信沢　精一　氏

②お悔やみ申し上げます
高橋　信一　様（平成二十年九月七日ご逝去）
小島　慶三　様（平成二十年九月十二日ご逝去）
相田　正代　様（平成二十年十一月三日ご逝去）
板倉　安男　様（平成二十年十一月二十八日ご逝去）
目崎不二夫　様（平成二十一年一月十六日ご逝去）
長坂　隆夫　様（平成二十一年三月二十二日ご逝去）

6、会員増強対策

（二十年十月～二十一年三月まで）

新入会員紹介（敬称略　入会順）
（紹介者　加藤力也）
・加藤　元三　行田市中里三二一
（紹介者　小山　博）
・清水　利一　行田市持田二七九二―一
ベルヴィアイトピア
（紹介者　須郷　和美）
・町田　祥子　行田市佐間一―八―五
（紹介者　渡辺　栄一）
・鈴木　康子　行田市若小玉三六―四
以上四名

プライミクス株式会社
会長　古市　實
社長　古市　尚
PRIMIX
本社〒553-0001 大阪市福島区海老江八丁目十六番四十三号
電話（〇六）六四五八－七五三〇
FAX（〇六）六四五八－七八五〇
東京支社〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目十六－四
埼玉支社〒350-0833 川越市芳野台二丁目八－四〇
工場　淀川・武庫川・埼玉・上海
http://www.primix.jp

小山商事株式会社
会長　小山　博
社長　小山喜一郎
本社　行田市埼玉三三五一
TEL〇四八―五五九―四一二㈹
リカリッシュ旭町店
TEL〇四八―五五六―三七一一
リカリッシュ大井店（熊谷）
TEL〇四八―五五九―四七一一
宝くじ売場持田店
TEL〇四八―五五三―四七一一

法人名：財団法人忍郷友会　事業名：事業全体　自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日　決算

収支計算書

(単位：円)

科　目	金　額
Ⅰ　収入の部	
基本財産運用収入	209,012
会費収入	1,782,000
総会費収入	1,093,000
寄付金収入	0
雑収入	264,185
当期収入合計　（ A ）	3,348,197
前期繰越収支差額	1,886,429
収入合計　（ B ）	5,234,626
Ⅱ　支出の部	
事業費	
事業費	3,059,809
慶弔費	
慶弔費	65,000
その他の経費	
一般管理費	516,511
会合費	112,790
事務所賃借費	395,580
業務職員給与	600,000
租税公課	2,000
当期支出合計　（ C ）	4,751,690
当期収支差額　（ A ）－（ C ）	-1,403,493
次期繰越収支差額　（ B ）－（ C ）	482,936

支出の部の内訳書

(単位：円)

科　目	予算額	決算額	差　異
事業費			
（総会費用）	1,315,000	1,427,421	-112,421
（会報発行費）	250,000	275,625	-25,625
（少年の主張支援）	215,000	206,763	8,237
（進脩塾支援）	1,120,000	150,000	970,000
（三端懇話会支援）	500,000	500,000	0
（読書推進支援）	500,000	500,000	0
小　計	3,900,000	3,059,809	840,191
慶弔費	100,000	65,000	35,000
一般管理費			
（通信運搬費）	300,000	279,847	20,153
（事務用品費）	200,000	120,417	79,583
（交通費）	20,000	0	20,000
（送金手数料）	30,000	27,700	2,300
（雑費）	30,000	88,547	-58,547
小　計	580,000	516,511	63,489
会合費	200,000	112,790	87,210
事務所賃借費	420,000	395,580	24,420
業務職員給与	600,000	600,000	0
租税公課	0	2,000	-2,000
予備費	100,000	0	100,000
合　計	5,900,000	4,751,690	1,148,310

財産目録

(単位：円)

科　目		金　額
Ⅰ　資産の部		
現金預金		
現金	現金手元有高	40,010
預貯金		
普通預金	埼玉りそな銀行 行田支店 4187540	1,601,292
普通預金	埼玉りそな銀行 行田支店 4085314	2,585,970
郵便貯金	郵便貯金　(00120-2-48444)	1,355,664
積立基金	有価証券　(取得価格)	1,327,965
資産合計		6,910,901
Ⅱ　負債の部		
負債合計		0
Ⅲ　正味財産の部		
正味財産		6,910,901

有価証券の金額は取得金額である。
内訳　東京電力株式　1,983株　(内登録株19株)
東京瓦斯株式　11,254株

貸借対照表

(単位：円)

科　目	金　額
Ⅰ　資産の部	
現金	40,010
普通預金	4,187,262
郵便貯金	1,355,664
積立基金	1,327,965
資産合計	6,910,901
Ⅱ　負債の部	
負債合計	0
Ⅲ　正味財産の部	
正味財産	6,910,901
（うち基本金）	3,000,000
（うち正味財産減少額）	-1,403,493
負債及び正味財産合計	6,910,901

平成二十一年度 ㈶忍郷友会役員名簿

理事

会長　松平　忠昌
副会長兼東京支部長　江草　忠敬
副会長　渡辺　栄一
事務局長　小山　博
川越支部長　加治　久明
理事　新井　友一
理事　碓井　勝也
理事　大野　年司
理事　黒渕　陽夫
理事　小池　英輔
理事　清水　龍男
理事　清水　義夫
理事　鈴木　秀憲
理事　田代　敬二
理事　中川　邦明
理事　古市　實
理事　堀　岩夫
理事　宮川　公男
理事　矢澤　大和
理事　山本　憲作

監事

監事　岩崎　安裕
監事　榎本　晃三
監事　大澤　誠
監事　加藤　力也
監事　保泉　欣嗣

名誉理事

名誉理事　佐藤孝太郎
名誉理事　清水　孝男

顧問

顧問　柳原　承光

特別会員

特別会員　阿部　正靖
特別会員　安藤　敬一
特別会員　坂巻　敏夫

評議員

評議員　青柳　憲助
評議員　新井　啓介
評議員　飯田　芳幸
評議員　飯塚　利男
評議員　市川　芳正
評議員　井上　啓子
評議員　五十幡和彦
評議員　内山　優
評議員　永島　健雄
評議員　江草　祥子
評議員　江原　史郎
評議員　江利川　毅
評議員　遠藤　初枝
評議員　大谷　純一
評議員　岡安　徳一
評議員　小川　雅以
評議員　奥貫　健一
評議員　小澤　誠邦
評議員　川辺　秀夫
評議員　木嶋　清
評議員　木村　義
評議員　木元　紘一
評議員　倉持成一郎
評議員　木暮　照子
評議員　小菅　克祥
評議員　斎藤　準一
評議員　鈴木貞二郎
評議員　瀬山　文孝
評議員　高島　謙一
評議員　戸ヶ崎直司
評議員　戸塚　義男
評議員　長島　康雄
評議員　永沼敬一郎
評議員　西澤　脩
評議員　根岸　仁司
評議員　橋本　恭一
評議員　長谷川雅敏
評議員　福島　伸悦
評議員　藤倉　浩
評議員　細井　保雄
評議員　松平由美子
評議員　松本　皓一
評議員　松本　尚
評議員　松岡　由浩
評議員　水谷　剛蔵
評議員　武笠　勇
評議員　村賀　英介
評議員　諸貫　健一
評議員　八木原　保
評議員　山田　晃
評議員　横川　福治
評議員　横田　保良
評議員　吉川　正就
評議員　渡辺　久記
評議員　綿貫　守男
評議員　㈳行田青年会議所

幹事

幹事長　中川　邦明
副幹事長　大澤　誠
副幹事長　渡辺　久記
幹事　坂田　幸彦
幹事　長谷川雅敏
幹事　五十幡和彦
幹事　飯島　千裕
幹事　小沢　健一
幹事　萎沢　伸浩
幹事　川島　亨
幹事　新井　誠
幹事　瀬山　文孝
幹事　長島　豊
幹事　松岡　由浩
幹事　鈴木　淳一
幹事　内田　善康
幹事　長谷川幸司

快適ガスライフ
サイカン工業株式会社

快適な環境づくりをめざして
(株)清水アーネット

第二十四回浮き城のまち行田「少年の主張大会」

理事　清水龍男

平成二十一年七月二十五日㈯十三時十五分より行田市教育文化センター「みらい」ホールにて、第二十四回浮き城のまち行田「少年の主張大会」が開催されました。

この大会は市内の小・中学校の代表者が日常生活を通して考えていることを市民に発表するもので、青少年健全育成を図るために、行田市教育委員会・青少年育成行田市民会議が主催し、㈶忍郷友会が後援となり毎年開催されているもので、昭和六十一年度の初回から今年で二十四回目になります。発表者は小学校六年生十六名と中学二年生一名、三年生七名の計二十四名の生徒でテーマは学校・家庭・地域社会・環境・平和・将来の夢など力強く発表していただきました。特に本年は「平和・家族・やさしい心」をテーマに発表される生徒が多かったと感じました。

来賓挨拶の中で当財団の松平会長は「楽しみにしている会であり、第一回に参加された方は三十歳を過ぎているという二十四回の歴史の重みを感じてほしい。そして本人のやる気はもちろんであるが発表の場を与えられることを喜び、更に原点を大事に見据えチャレンジ・努力をすることが重要であり、初心を忘れずに前に向かってほしい」とのお話をされ、㈶忍郷友会は出来ることからお手伝いをしたいと結ばれました。

審査終了後、主催者代表より表彰状を、松平会長より発表者全員に「広辞苑」が贈呈されました。優秀者は次回賀正会にて発表していただきますのでどうぞお楽しみにしてください。

当会からは松平会長・渡辺副会長・小山事務局長・田代理事・矢沢理事・山本理事・岩崎監事・大谷広報委員・奥田会員・・遠藤事務局の参加をいただきました。

来年も多くの会員の参加をいただければと思っています。是非、子供達の生の発表をお聞き下さい。

審査結果

（発表者 小学生16名、中学生8名）

○教育長賞
星宮小学校　棚澤　知樹
中央小学校　駒見　直音
埼玉中学校　小山　実穂

○忍郷友会長賞……3名

○優秀賞……18名

忍郷友会会長賞作品三作品を紹介します

やさしさの花束

埼玉小学校六年　内田瑠奈

私の住んでいるこの埼玉は、埼玉県名発しょうの地であり、数多くの古ふんが残るとてもすばらしい所です。春には桜が咲きみだれ、五月四日に行われる火祭りには、各地からたくさんの人達が訪れます。そんな歴史ある埼玉ですが、大きなお店もなければ、電車が停まる駅もありません。けれども都会にはない愛情ややさしさ、人と人とのふれ合いがいっぱいあります。これは決してお金では買えません。

私はよく祖母や母から、母が子供のころの話を聞きます。そのころは、となり近所がみんな家族のようで、兄弟ではなくても上の子が下の子の面どうをみて、よその子供でも自分の子供のようにしかったりするのは当たり前だったそうです。

今は、人と人との会話はメールで

出来てしまいます。それはとても便利なことですが、画面に写る文字はなぜか冷たい感じがしてしまいます。例えば、「そうなんだ。」という一言でも、文字だけでは気持ちが伝わりません。イントネーションを変えて読むだけで、うれしい気持ちになったり、悲しい気持ちになったり、時には相手をきず付けてしまうこともあります。メールなんてなかった時代は、けんかも仲直りも直接会って、会話をしないと出来なかったことです。だから、そういう時代に生まれてきた人達は、人の痛みがわかり人を信じる気持ちを持っていたと思います。

そんな気持ちを持っている人達が私の周りにはたくさんいます。見守りボランティアの人、畑仕事をしている人、犬の散歩をしている人、みんな自分の子供や孫のように声をかけ、温かく見守ってくれています。そのやさしさや温かさは、私が生まれるずっと前からこの土地に住んでいた人達が築き上げてくれたものだと思います。

今も昔も変わらず、人と人、家と家のつながりを大切にして、私達に接してくれる埼玉の人達のやさしさや温かさをなくさないためには、私達がもっと地域のことを良く知り、協力していくことだと思います。そして、その人達が埼玉の地にまいてくれた愛情の種を、私達がからさないように大切に育て、いつか大きな花束にして恩返しをしたいです。そして大人になった時、祖母や母がなつかしく埼玉のことを話してくれたように、いつの日か私も話せるような大人になりたいです。

心のレスキュー

南河原小学校六年　斎藤　紘平

「助けて、もういやだ。」これは何ヶ月か前のぼくの心のさけびです。

五年生の終わり頃、ぼくには悩みがありました。何かを見たり聞いたりすると、そのことからいつも最悪のことを考えてしまい、心は暗くくよくよ考えてばかりいる毎日でした。今なら何でもないことなのに、その時はつらくてつらくて仕方がなくて、死んでしまったらどうだろうとまで考えました。

あの頃のぼくのように悩みを持っている人は、たくさんいると思います。そして、その悩みのせいで自殺してしまう人も多いことはみなさんもテレビや新聞、インターネットのニュースでよく見かけるのではないでしょうか。

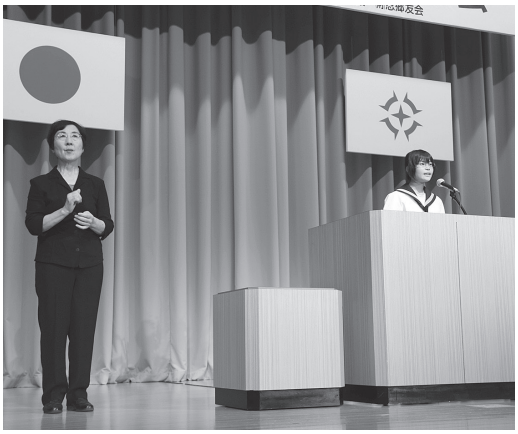
ぼくが悩んでいた時、その悩みを解決へと導いてくれたのは、他の人に話を聞いてもらうということでした。ぼくは、母に心の中でおきていたことをすべて話しました。すると、母は特に何も言ってくれたわけではないのに、ぼくの心の中からスーッと何かがぬけていくのが分かりました。心が軽くなったのです。

つまり、悩みがある人はだれかに話し、それを聞く人は真剣に聞いてあげることが大切だと思うのです。

ぼくたちは、以前担任の先生から「上手な聴き方」というのを教えてもらいました。ぼくと先生で、いろいろな場面のロールプレイングをしました。関心のないような聞き方やえらそうな聞き方をされた時には、腹がたって、それ以上話すのがいやになりました。反対に、相手をよく見てうなずいたり相づちをうったりして関心のある聞き方をしてもらうと、どんどん話したくなりました。この授業でぼくたちは、上手な話の聞き方をすれば、相手と心をつなぎ合うことができると知りました。

これらの体験を通して、ぼくは悩んでいる人に言いたいことがあります。悩みがあっても、一人でかかえこまないでだれでもいいからその悩みをうちあけましょう。悩みをもつのは、悪いことでもはずかしいことでもないと思います。むしろ、どう生きるかを真じめに考えているから悩みも生まれるのだと思うのです。だから、その悩みをうちあけられる人をたくさん作りましょう。うちあけられた人はふざけず真剣に聞いてあげてほしいです。

ぼくも母に聞いてもらうことで、心が晴れました。今度は、ぼくが悩んでいる人の話を聞いて、その人の心を苦しみから救うことができたらいいなと思います。そうすることこそ、心のレスキューだと思うのです。



今、ここから〝私〟から

行田中学校3年　柳川愛子

地球の悲鳴が聞こえますか。私たちの星、地球が今、どんな危機に陥っているのか、皆さんは知っていますか。オゾン層に穴が空き、たくさんの動物が絶滅し、川は濁り、緑が失われていっている地球。これらの現象のほとんどは私たち人間が招いてしまったことなのです。私たちに出来ることはないでしょうか。

「どうやって直すのかわからないものを、壊し続けるのはもうやめてください。」そう、一九九二年のリオ地球環境サミットでスピーチをした少女がいました。セヴァン・スズキさんです。当時十二歳だった彼女は、自分の未来だけでなく、これから生まれてくる子どもたちや地球に生きる全ての命のためにスピーチをしました。

私は、このスピーチの記録を昨年読みました。それからずっと考えています。「二十年近く経ったけれど、その間に地球は良くなったのだろうか。」と。砂漠化やオゾン層の破壊、森林伐採やそのせいで起こる土砂災害、地球温暖化による海面上昇や異常気象など、むしろ以前より深刻な環境問題が、世界中で起こっています。

私は地球に生まれてよかった、と思っています。地球の、日本の、埼玉県の、この行田市に生まれて。元気で温かい家族とたくさんの友人に囲まれ、時にはけんかをして泣いたり、みんなで飛び跳ねるほど喜んだりして、今まで生活してきました。大好きな人たちと出会えたのは、太陽と適度な距離を置いて地球があり、水が存在して、何億何千年もかけて生命が進化し、適度なオゾン層が地球を包んでいるおかげなのです。少しでも太陽に近過ぎたり、オゾン層が薄かったら、私たちは地球に生きることはできない、この世に存在していないのです。少しでも地球全体の気温が上がってしまったら、桜の花とともに迎える春も、雪の中元気いっぱいに遊ぶ冬も、あり得ないのです。大切な大切なこの十五年間の思い出は、実は非常に危ういバランスの中で出来上がったものなのです。

しかし、もう自然環境の変化は始まっています。私が小さい頃に遊んでいた川では、昔はたくさんいたドジョウもザリガニもいなくなってしまいました。明け方にカブトムシを捕りに行った森も、今は木を切られてしまいました。楽しかった思い出の場所が、もう失われ始めています。皆さんの思い出の場所もそうなっているかもしれません。とても寂しいことだと思います。そしてこのままでは地球自体がなくなってしまう。その日がいつかはわかりませんが、遠い未来であろうと、すでに私たちがいなくても、地球に生きる人たちが、この奇跡の中でかけがえのない時を生きてほしいのです。

皆さんは、地球のためにどれだけ今の生活を変えることができますか。特に「地球温暖化」の原因、二酸化炭素を減らすために。

私はこの夏休み、次のことを行います。まず、行田市内は自転車か徒歩で移動する。水筒を持参し、ゴミを出さない。冷房は午前十時～午後三時まで、それも設定温度は二十八度にし、それ以外の時間は扇風機を使います。そして、買い物のときはエコバッグを持っていき、レジ袋は使いません。夜は遅くても十一時までに寝て節電に努めます。また、食べ残しは焼却場で燃やされるので、残してはいけません。食べられる量を、母と相談して作ります。できるだけ、庭に水をやり、我が家から緑化を広げていきたいと思います。

私はこれらのことを必ず守ります。大変でも、守りたいものがあるから。地球を守ることは家族や友人、これからの命を守ることです。「今、ここから〝私〟から」出来る限りのことを行います。ですから皆さんも、できる範囲でいいので、私の小さな活動に協力してください。

第九回　三端懇話会

評議員　福島伸悦

今年九回目を迎えたこの事業に初めて参加させていただきました。わくわくした気持ちとちょっぴり不安と緊張が入り交じった中、午後一時商工会議所前バスにて出発しました。

市内の八つの中学校から十六名、進修館高校から五名、そして忍郷友会から山本憲作委員長、田代敬二氏、矢沢大和氏、木暮照子氏、遠藤初枝事務局、そして私の六名。そして忍郷友会会長・松平忠昌氏が現地で合流。バスの車内でそれぞれ自己紹介をし、本日の講師の天野亨さんが出演したＮＨＫの人間ドキィメンタリー「盲導犬レザンとの別れ」のＤＶＤの上映。その後、各自自己紹介。

午後二時四十五分、霞ヶ関会館に到着。三十四階の控え室で時間まで待機。木暮さんよりフランス料理のマナーの講習会があり、用意されたジュースで一息。そして、講師を交えての写真撮影。

午後四時開会。山本委員長司会のもとに進行。松平会長より挨拶。要約は次の通り。

「行田市と松平家との関わりは、一八二三年桑名から転府してから百八十六年続いている。忍郷友会は、明治三十八年（一九〇五年）発足以来百四年の歳月が流れる。この間、違いのわかる人材の育成に力を注いできた。違いとは距離間を感じることである。出会いを大事にしてほしい。出会いも距離間である。今日の出会いを大切にして何かを感じ取っていただきたい」

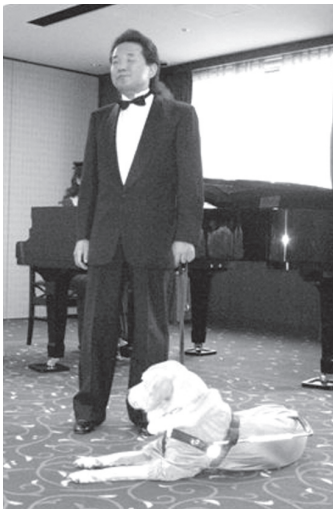
天野亨さんのお話とコンサート。

車内であらかじめ天野さんのこれまで歩まれてきた人生についての予備知識があったため、とても親しみを感じたのは私だけではなかったようでした。

天野さんは、ピアノの伴奏で、ドイツシューベルトの「ます」、フランスの歌ガブレオーレ作曲「マンドリン」オペラ・アリア　ファースト「清きすみか」等を歌ってくださいました。そして、お話。高校時代にクラシックに目覚める。そして盲目というハンディキャップにもかかわらず国立音楽大学に入学。もっともっと自分の世界を広げたいと思い、盲導犬をパートナーにする。盲導犬は、仕事、遊びなどの活動をバックアップしてくれる大事なかけがえのない良きパートナー。子どもの頃からやりたいこと、その思いを口に出すようにしてきた。口に出すことによって思いが願いに変わる。そして、思い続ければ必ず願いは叶うということ。最後に中学生、高校生へ貴重なご提言を頂きました。それは、一つ目はしっかりご飯を食べること。二つ目はスポーツをやること。三つ目は本を読むこと。休憩を挟んで、二部は「荒城の月」等日本の曲を歌ってくださいました。

コンサートの後、会場を移動し、フランス料理のフルコースで美味しい料理を堪能しました。ちなみに、当日のメニューは①スモークサーモン香草サラダ添え②スープパリの夕暮れ③スズキのポワレグルノーブル風④ローストビーフオ温野菜添え⑤特製デザート（アイスクリーム・フルーツ）⑥コーヒー

あっと言う間に至福の時間が過ぎてしまいました。松平会長にお見送りを戴き、一路行田に向かい、午後9時、予定通り、行田に到着しました。皆さん、ありがとうございました。



講師 天野　亨 氏と盲導犬

三端懇話会に参加して

南河原中学校三年　河合美樹

私は三端懇話会に招待され嬉しく思った半分、知らない人がたくさんいる中に行くのでとても緊張しました。実際に行き、まず初めに自己紹介をして他の人の将来目指していることを聞き、「みんな、将来の夢を持っていて凄い。」と思いました。自分は決まっていないのでとても「羨ましい」とも思いました。

その後の天野先生と盲導犬のレザンのビデオは、とても感動的で人間と犬でもこんなにも深い絆が生まれるんだなと思いました。一番心に残ったのは、天野さんの歌声です。とても力強く、何かをうったえているかのようにとても心に響いてきました。点字の譜面をみたときに「これを読みながら歌うなんて凄い。」と思いました。そして大学へ行くにも学校に頼みに行ったりしたと聞き「色々な苦労をしてでも、夢に向かって頑張るというのは、難しいことでもあるけどあきらめないというのはすごいな。」と思いました。

食事会では、マナーを学んだりと、初めての事にとまどいましたが、楽しく食事ができたし、松平さんの色々と勉強になる話が聞けてよかったなと思いました。

最後に、全体を通してとても楽しく、勉強になる色々な話が聞けてよかったと思ったし、新しく知り合えた友達ができて嬉しかったです。

忍中学校三年　中井雄高

八月二十四日に行われた三端懇話会では、普段味わうことのできない貴重な体験ができました。まず、行きのバス内で観た「さよならレザン」では、盲目のテノール歌手天野亨さんとその盲導犬レザンとの絆に心動かされました。また生涯の大半を主人のパートナーとして生きる盲導犬のすばらしさを改めて感じました。そして天野さんの歌声を目の前で聴いた瞬間とても感動しました。合唱の歌声とはまた違った人間の持つ声本来のすばらしさ感じさせられました。また部屋じゅうに響きわたるとてもおおきく、きれいな歌声に圧倒させられました。

鑑賞終了後の天野さんのお話では、天野さんが僕たちにおっしゃった「夢を諦めないでください。」という言葉が胸に響きました。僕はまだ将来のことについてははっきりと決まっていませんが、この先大きな夢ができた時、天野さんの言葉を忘れず胸にしまっておきたいです。

テーブルマナーを学ぶための食事では、初め緊張ぎみでしたが、同じテーブルの人たちと会話をしているうちに、初めの緊張もなくなり楽しくおいしく食事をすることができました。そして何より年齢を重ねた経験豊かな方々と楽しく会話をすることができてよかったです。年齢の違う方々と交流することの楽しさを感じた瞬間でした。

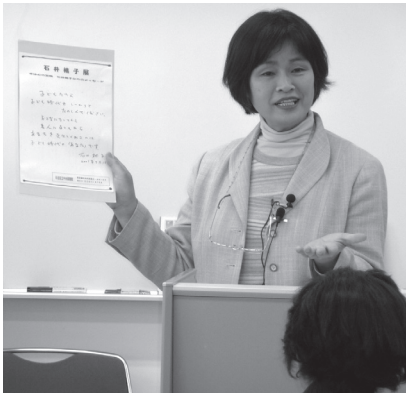
三端懇話会は、心に響くことばかりでした。受験へ向けての勉強や塾続きの日々を過ごしていた中、今回の体験はとても貴重なものでした。中学三年の夏休み、心に残る思い出ができて本当によかったです。

読書推進運動について

読書推進委員長　大野年司

第七回目の読み聞かせボランティアスキルアップ講座が平成二十一年二月八日(日)　午後一時三〇分から行田市教育文化センター「みらい」にて開催されました。

講師には科学絵本を楽しく読ませる指導を得意とする代田みち子先生（科学読物研究会運営委員・国立やまびこ文庫主宰）にお願いしました。五十八名の参加を頂き、「科学絵本と楽しく科学あそび」という演題でご講演を頂きましたが。当日、どんぐりや、万華鏡、折紙、紙で作ったコマ等たくさんのグッツを持参頂き、目で見、手で触り、音を聞いたりしながら、自然に科学領域に入っていく手法等は、今迄に体験の無い切り口という事でかなりの好評を得る事が出来ました。



講師　代田みち子先生

読書推進先進地茅野市で研修会

又、講演の後、各読み聞かせボランティアの皆様同士の日常の活動に関する情報交換や、意見交換が代田先生のリードで、先生の参考意見等も頂きながら進められ、ボランティアグループ同士の交流が計られ、今後の活動の活性化につながったと思います。

読書推進先進地茅野市で研修会

今年度は、本年十一月六日(金)、長野県茅野市への先進地視察で読書推進事業「読りーむｉｎちの」の視察研修を致しました。事業を推進する「読りーむｉｎちの」の会長始め、官の代表の学習企画課長の報告、意見交換で実態を把握する事が出来ました。官と民の役割について多くの示唆を得る事が出来ました。今後の行田市における読書推進活動の参考にしてゆく所存です。

読み聞かせボランティア講習会

平成二十二年二月十四日(日)には、東京こども図書館から講師を派遣して頂き、子供達とかなり質の高い読書活動を読み聞かせボランティア、その他の皆様と学んでゆく予定となっております。

これからも、一歩ずつですが地道に、市内の子供達の読書推進を進めてゆく所存ですので、よろしくお願い致します。

進脩塾活動について

進脩塾主幹　田代敬二

（素読教室・定例講座・漢字文化講演会）

① 素読教室（小学生対象）

会場を行田市郷土博物館（忍城御三階櫓）講座室として、毎月第一、第二、第三土曜日午前九時三〇分～一〇時二〇分まで上級組一〇名で「孝経と漢詩」、一〇時〇〇～一〇時五〇分まで中組五名が「論語と漢詩」、十一時〇〇～十一時三〇分まで初級組六名で「論語と漢詩」をそれぞれ声を張り上げて斉唱しております。

入講希望者にはいつも門戸を開いておりますのでご紹介下さい。無料です。

② 定例講座（一般市民対象）

教本は「孟子」、副読本を吉田松陰の「講孟箚記」とし、元埼玉県教育長荒井桂先生を講師として、会場は行田市商工センターにて毎月第四土曜日の夕、午後六時二〇分～八時まで行い、八時からは会食会となり、道友間の談論風発の場となります。新会員の参加を歓迎しております。

③ 第九回漢字文化講演会（市民公開講座）

日　時　平成二十一年八月二十二日㈯　午後一時三十分～四時

場　所　行田市教育文化センター　みらいホール

第一部　素読教室発表会

上級組、中組、初級組児童十八名による「論語」、「漢詩」、「孝経」の朗唱が堂々と行われ、会場から賞賛の拍手を頂戴しました。

第二部　漢字文化講演会

講　師　村山吉廣氏（早稲田大学名誉教授）

演　題　「忍藩藩儒芳川波山の生涯と詩集」

参加者　三百五十名

※終了後会場を忍・行田公民館に移して、講師を囲んで「忍藩藩儒芳川波山の生涯と詩業」出版記念パーティが開かれ盛大でした。

④ ケーブルテレビ放映

行田ケーブルテレビにて、毎月の定例講座、公開講座（漢字文化講演会及び素読教室発表会）の模様を随時放映している。

※毎月三日間行われている素読教室には左記の五名の方々の熱いご協力によりつつがなく進められております。紙上を借りて感謝の意を表します。

論語・漢詩　講　師　水野　孝市

奥田　七寿

指導員　川田　隆生

荻野谷麗子

遠藤　初枝

⑤ 行田市に書籍寄贈

平成二十一年八月十一日、行田市制施行六十周年記念・郷土の偉人を知る事業に協賛し「忍藩藩儒芳川波山の生涯と詩業」新刊書を三五〇冊寄贈しました。

忍藩藩儒『芳川波山の生涯と詩業』出版について

理事　田代敬二

忍藩藩校進脩館学長、芳川波山先生の名前は古くから聞き及んでおりましたが、その人となりや業績については、くわしく知る人もなく、又知る手段、資料もありませんでした。

ところが、奇しくも先年、波山先生の菩提寺「長久寺」が本堂の老朽化に伴い、解体され新しく建立されることとなり、本堂落慶記念として行田市郷土博物館にて「長久寺展」が開催されました。

数多くの寺宝が展示されている一隅に波山先生肉筆の書物「晩晴楼文章」上・下と「舎魚堂詩集」がありました。聞けば、長久寺先代住職三十二世浄継上人が古書店で発見して購入、寺宝としていたもので、われわれにとっては千載一遇の大発見でありました。

百八十年の長きにわたり埋もれていたこの貴重な資料に光を当て、世に送り出すことはわが財団法人忍郷友会の使命ではないかと考えた次第です。

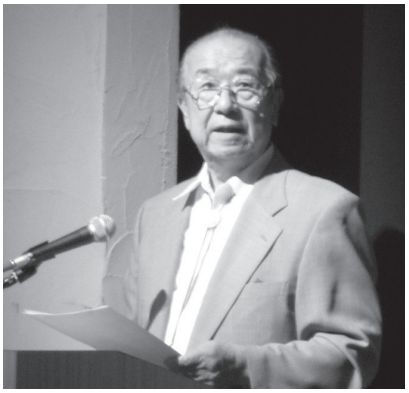
講演される早稲田大学名誉教授村山吉廣先生

しかしながら、原漢文の書を解読し、読み下し文、訳註をつけて出版する作業、諸経費の問題、販売に当っての採算の問題等々考えれば考える程難事業でありました。

しかし、このまま見過ごしてしまえば、この資料は二度と日の目を見ることは無いだろうという意見が大勢を決し、取り敢えず「読み下し文、訳註、解説」までの執筆作業をお願いしようということになりました。

幸いわが㈶忍郷友会は数年前より漢字文化振興会と提携して講演会事業を行っていた縁で、早稲田大学名誉教授村山吉廣先生に知己を得ていたことから快諾を頂き、出版計画はスタートすることが出来ました。

執筆作業が順調に進み、「忍藩藩儒芳川波山の生涯と詩集」として全体像が浮かび上がってきた。本年初頭に至り行田市として、市制施行六十周年の記念すべき年に当り、市の先人顕彰の意図「郷土の偉人を知る事業」に合致することが判り、これに申請して受理されたことから、行田市より多大な支援協力を頂き、ここにめでたく出版することが出来


出版のいきさつを説明される田代敬二氏

るに至ったわけです。（平成二十一年八月）

㈶忍郷友会にとって初の先人顕彰という大事業がつつがなく終了したことの経緯をご報告申上げむすびといたします。

※内容については次の元埼玉県教育長荒井桂先生による「忍藩藩儒芳川波山の生涯と詩業」のすすめ―志高い人びとの縁あって成った「郷学」の名著―をご一読下さい。

『忍藩藩儒芳川波山の生涯と詩業』のすすめ
―志高い人々の縁有って成った「郷学」―

財団法人郷学研修所長
元埼玉県教育長
荒井　桂

安岡正篤先生は、活きた人物学・実践的人間学を展開される中で、人と人との縁を大切にせよと教えられた。わけても志高い人物どうしの縁を勝縁として重んじられた。

一方また、地方郷党の先賢を顕彰し、そのお風土に培われている学問を振興して、士気を振起する「郷学」の作興にも力を注がれた。いずれも真の人間づくり、人物の養成に必須の要因とされたからであろう。

このたび、この安岡教学の理念を具現化した名著が出版された。

『忍藩藩儒芳川波山の生涯と詩業』がそれである。縁有って安積良斉の推輓により譜代の名門松平家の忍藩の賓師として藩校「進脩館」の学頭に招かれた漢詩人儒学者芳川波山の生涯と詩業を見事にまとめあげた、文字通り「郷学」の名著と呼ぶにふさわしい書物である。所与の条件の下で、これ以上を望むべくもない出来ばえといえる。早速に漢字文化振興会の「漢字文化奨励賞」の栄に浴したことが、その何よりの証しであろう。

この名著が、志高い人びとの勝縁が重なって出来上がった経緯もまた特筆に値する。深く敬意をこめて称えよろこぶところである。

先ず、著者に人を得た事である。埼玉県の漢詩人・儒学の先賢の顕彰において、第一人者とされる碩学、村山吉廣早稲田大学名誉教授の志高い尽力の傾注のお蔭をもって始めて成った名著といえるからである。

次に、それを可能にしたのは、旧忍藩第一六代(財)忍郷友会の松平忠昌会長と田代敬二理事を初めとする同志同学の人びとの熱心な取り組み及び地元行田市当局、更には有志市民等の方がたによる物心両面の支援であった。これこそ、「真の郷土の振興は、先人の遺風、業績を掘り起すことから始まる。過去を継承せずして健全な未来の創造はあり得ない」とする「郷学」振興の範例ともいうべき快挙であった。

そればかりではない。つとに志高い出版で名声ある明徳出版社の小林真智子社長が、採算を度外視して本書の刊行を快諾して頂く幸運にも恵まれた。文字通り、志高い人びとの勝縁が重なるという妙運のよろしきを待って始めて実現し得た「郷学」の名著といわねばなるまい。

この名著の出来ばえを称えると同時に、その成立の経緯にも深く敬意を表わしつつ、「郷学」の振興及び本県教育・文化の進展の両面から、この名著を推奨してやまないところである。

堂上会
理事　柳原承光
（旧　松平忠頴）
〒100-6034　東京都千代田区霞が関三丁目二番五号　霞が関ビル三十四階　霞会館内　電話〇三（三五八一）九一五一番(代)
〒100-0032　東京都港区六本木六丁目十六番五十号　電話〇三（三四〇八）五八七六番

第八回　全国藩校サミット　長岡大会の報告

監事　岩崎安裕

平成二十一年六月二十日(土)に第八回全国藩校が「米百俵の精神」が伝わる越後の地長岡にて全国の藩主の子孫や歴史関係者、市民ら約一六〇〇名が集い、過去最大規模の盛大な大会が開催されました。

テーマ

『未来へつなげ！
藩校と米百俵の精神』

サミットでは歓迎芸能「書道吟」で始まり、旧長岡藩一七代当主牧野忠昌実行委員長が「崇徳館」は小林虎次郎、河井継之助ら数多くの人材を輩出しており、米百俵の精神をはぐくみ、現長岡高校や阪之上小学校などの礎となった。参加者の皆さんと藩校の教育を学び、新しい人づくりを考えたいと述べられた。

一、藩主・藩校紹介

北は弘前（青森）から南は薩摩（鹿児島）まで過去最多の五十一藩（江戸幕府含む）の代表が集まり、うち二十八藩主・藩校が漢字文化振興会事務局長・白石宗靖氏より紹介された。

二、記念講演Ⅰ

「江戸時代の人づくり」
徳川恒孝氏
徳川宗家十八代当主
藩校や寺子屋の教育について講演

三、記念講演Ⅱ

「郷土先人の漢詩にみる長岡の精神」
石川忠久氏
元二松学舎大学学長

四、論語素読

地元小学生が藩校で教えられていた論語の素読を披露した。

五、基調講話

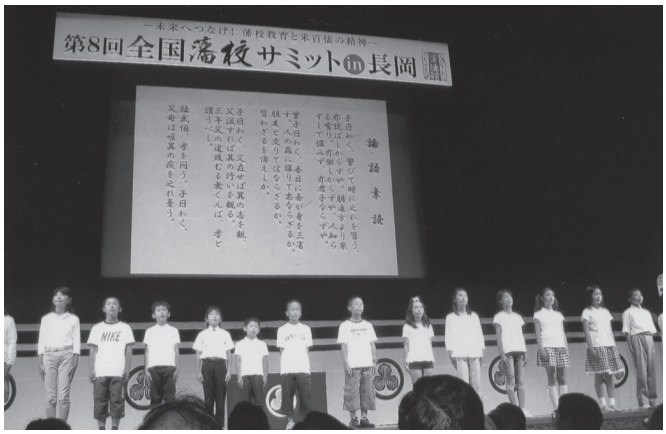
「長岡藩学の系譜と米百俵教育の理念」について
稲川明雄氏
長岡市河井継之助記念館館長

長岡藩の藩学
長岡藩学の成立
幕末戊辰戦争と長岡藩の人々
米百俵の故事と国藩学校の成立について

六、鼎談

櫻井よしこ氏　ジャーナリスト
森　民夫氏　長岡市長
羽賀　友信氏　長岡市国際交流センター長

長岡市出身の櫻井よしこさんと森市長らが長岡藩の藩校「崇徳館」



には多様な学問を認めるおおらかな気風があった。様々な価値観を認める教育が大切だと述べた。

以上全国藩校サミット宣言を採択して閉会となった。次期開催地は平成二十二年「松江藩」島根県松江市での開催が決まった。

最後に藩校の果たしてきた役割や精神、漢字文化をはじめとする伝統文化を見直し、日本民族の誇りと心豊かな国造りのために貢献することが大切であり、藩校サミットが継続的な活動となっていることを実感した次第です。

㈶忍郷友会からの参加者

松平　忠昌
田代　敬三
岩崎　安裕
奥田　七寿
川田　隆生
井上　啓子
荻野谷麗子
柳瀬とし子
鈴木　寿子
遠藤　初枝

診療所の温かさをもちながら、レベルの高い医療・介護の提供を！
医療法人　葦の会
電話（代）048-555-3519　URL http://www.ashinokai.net/
整形外科
リハビリテーション科
石井クリニック
ショートステイ
「笑顔いっぱい」
デイケア
「元気いっぱい」
「笑顔いっぱい」
居宅介護支援事業所
「ステップアップ」
訪問リハビリテーション

脈々と受け継がれる越後長岡「米百俵の精神」

戊辰戦争で焼き尽くされた長岡に、三根山藩から送られた百俵の米。
時の長岡藩大参事・小林虎三郎は、これを分配せずに売却して
資金をつくると、反対する藩士たちを説き伏せて、
国漢学校の整備に充てたという。
「まちとは、人が興すもの。まちづくりは、人づくりから始まるのだ」
この思想は長岡の地に深く根を張り、まちの繁栄の礎となっていった。
これが、山本有三の戯曲『米・百俵』によって世に知られた、
長岡の誇り、「米百俵」の故事である。

平成二十一年度　会員名簿

法人会費

（会費二万～五万円）

㈲羽生モータースクール
医療法人　葦の会
㈱有斐閣
大野建設㈱
公認会計士
㈲中央百貨店
ガクヤ㈱
東旭㈱
小山商事㈱
㈱清水アーネット
ベルヴィ　アイトピア
㈱協同バス
田代商事㈱
㈱サンワックス
㈾行田セレモニー
渡辺㈱

五十幡和彦
石井　義則
江草　忠敬
大野　年司
奥貫　健一
川辺　秀夫
小池　英輔
小菅　克祥
小山　博
清水　孝男
清水　利一
鈴木　秀憲
田代　敬二
山田　晃
横川　福治
渡辺　栄一

役員会費

（会費一〇〇〇〇円）

青柳　憲助
飯塚　利男
井上　啓子
永島　健雄
江原　史郎
大澤　誠
小川　雅以
加藤　力也
木元　紘一
木暮　照子
清水　義夫
瀬山　文孝
戸ヶ崎直司

新井　啓介
飯田　芳幸
岩崎　安裕
江草　祥子
江利川　毅
大谷　純一
小澤　誠邦
木嶋　清
倉持成一郎
斎藤　準一
須郷　榮司
㈳行田青年会議所
戸塚　義男

新井　友一
市川　芳正
碓井　勝也
榎本　晃三
遠藤　初枝
岡安　徳一
加治　久明
木村　義
黒渕　陽夫
清水　龍男
鈴木貞二郎
冨田　久雄

中川　邦明
西澤　脩
長谷川雅敏
古市　實
堀　岩夫
松本　皓一
水谷　剛蔵
村賀　英介
矢澤　大和
横田　保良
綿貫　守男

長島　康男
根岸　仁司
福島　伸悦
保泉　欣嗣
松平　忠昌
松本　尚
宮川　公男
諸貫　健一
柳原　承光
吉川　正就

永沼敬一郎
橋本　恭一
藤倉　浩
細井　保雄
松平由美子
松岡　由浩
武笠　勇
八木原　保
山本　憲作
渡辺　久記

正会員会費

（会費五〇〇〇円）

秋山　節
鮎川　渡
飯島　千裕
五十嵐亥三生
岩崎　利一
丑久保紀美
遠藤千枝子
大谷　龍良
大谷　昭
荻野谷麗子
小澤光太郎
柿沼　満
加藤　一夫
鎌田　実
川島　清
川田　隆生
木村　忠夫
黒川　良子
佐藤　良明（群馬銀行行田支店長）
小池聰太朗
小島　敏男
小林　義和
堀籠　秀直（埼玉りそな銀行行田支店長）
飯島　敬司（埼玉県信用金庫行田支店長）

渥美　大童
新井　誠
飯島　伸明
井桁　浄継
植田　次郎
江草とみ子
及川　礼子
大友　務
大嶋　康三
奥田　七寿
小幡　和佑
加瀬田　健
加藤　誠一
上村　隆史
川島　亨
川鍋　重寿
木村　洋子
栗原　省二
小池　利昌
小林　一好
小林　晴夫

阿部秀二郎
新井　昌夫
飯塚　正夫
今井　福司
内田　善康
江黒　宏
大須賀伊司郎
大西　義道
岡田　則之
小沢　健一
柿沼　京子
片桐　章雄
加藤　元三
鴨田　武
川島　清実
岸　誠太郎
国島　正江
倉田　耕市
小久保和子
小林　敏則
小山喜一郎

斎藤　慶一
坂田　幸彦
里見　義臣（進修館高校校長）
須郷　栄司
鈴木スイ子
鈴本　達哉
滝田　和夫
田代克太郎
棚沢　孝一
長島　豊
新島　璋紀
信沢　精一
蓮見　牧子
長谷川盛雄
羽鳥　弘
東　端芳
古沢　勇治
町田　祥子
松本　光弘
三島　務
北上　博（武蔵野銀行行田支店長）
森　安正
矢口隆一郎
柳瀬とし子
吉田　修
若松　良一
渡辺　幸子

斎藤　恒
坂本　光代
須郷　隆
鈴木　寿子
関根　俊一
田熊　宏次
田中　利幸
津田　馨
永沼督一郎
野口　昭夫
野村　正幸
長谷川賢治
長谷見輝生
半田　太
二味　宏
細谷　茂樹
松岡　圀男
丸山　和雄
水谷　良二
森田純之助
安田　裕信
山本　正幸
吉田　寿夫
渡邉　昭孝

斎藤　操
正田　善洸
須郷　和美
鈴木　康子
高橋　貞雄
田島　正雄
田生　泰子
富田　暁子
長野　武俊
野口　浩一
芳賀　道子
長谷川志づ枝
羽鳥　利明
平井ユリ枝
古市　恒裕
増山　忠男
松田　招蔵
丸山　綱男
武笠　直義
安野　崇雄
横山　☒
吉田　稔
渡辺　邦道

（平成二十一年十一月三十日現在）

進修塾会費

（一〇〇、〇〇〇円）
鈴木　秀憲
（五〇、〇〇〇円）
清水　孝男
田代　敬二
（三〇、〇〇〇円）
鈴木貞二郎
小山　博

横川　福治
小沢　誠邦
（二〇、〇〇〇円）
木村　義
川辺　秀夫
（一〇、〇〇〇円）
木嶋　清
山本　憲作

中川　邦明
渡辺　邦道
野村　昭
矢澤　大和
奥田　七寿
遠藤　初枝

※一部入金予定者を含む

平成二十一年度 事業行事経過メモ

1、総会

①定時総会開催

（理事・評議員会、講演会・懇親会）

日　時　平成二十一年六月二十八日(日)
　　参加者八十四名
　　午後二時～午後八時

会　場　行田市・ベルヴィアイトピア

来　賓

衆議院議員　小島　敏男　様

行田市議会副議長　大河原梅夫　様

行田市教育委員会教育長　丸山　綱男　様

行田商工会議所名誉会頭　清水　孝男　様

行田商工会議所副会頭　小川　雅以　様

行田ロータリークラブ会長　小林　一好　様

行田ライオンズクラブ会長　中川　邦明　様

行田青年会議所理事長　小池　邦彦　様

忍藩主阿部家22代当主　阿部　正靖　様

松平忠昌議長より平成二十年度の事業および決算、監査について報告があった

記念講演

～棋士の思考法からひも解く「直感力」～

講　師　矢内 理絵子 様

女流プロ棋士

懇親会　アトラクション

「原正夫とラテンジャズ」

2、役員会

①理事・監事合同準備会

日　時　平成二十一年四月二十七日(日)
　　午後三時～午後五時三十分

会　場　行田本部事務所　会議室

審議事項

1　平成二十年度事業報告書(案)について審議

2　平成二十年度決算報告書(案)について審議

3　平成二十年度の事業・決算に係わる監査

4　平成二十一年六月二十八日(日)総会開催について

6　その他

定時総会日に開催される理事会・評議員会に提案する審議事項並びに総会報告事項の決定、総会の運営進行等について打ち合わせ

②理事会、評議員会

日　時　平成二十一年六月二十八日(日)
　　午後二時～三時三十分

会　場　ベルヴィアイトピア

審議事項

1　平成二十年度の事業報告がなされ審議・承認

2　平成二十年度の決算報告がなされ審議・承認

3　平成二十年度の事業に係わる監査について報告された

4　その他

③理事・監事合同準備会

日　時　平成二十一年十二月十五日(火)

会　場　行田市・本部事務所

審議事項

1　平成二十二年度（平成二十二年四月一日～平成二十三年三月三十一日）事業計画(案)について審議

A「進脩塾」事業計画案について審議

B「浮城のまち行田少年の主張大会」事業計画案について審議

C「三端懇話会」事業計画案について審議

D「読書推進実行委員会」事業計画案について審議

2　平成二十二年度（平成二十二年四月一日～平成二十三年三月三十一日）予算(案)について審議

3　平成二十二年二月の理事会・評議員会、総会・賀正会の日程について小山博事務局長より、平成二十二年二月二十日(土)に開催したいとの提案があり審議

4　その他

3、教育奨励事業

①進脩塾活動

公開講座

行田市市制施行60周年記念

～郷土の偉人を知る事業～

第六回「漢字文化講演会」と「素読教室発表会」

日　時　平成二十一年八月二十二日(土)

会　場　行田市教育文化センター「みらい」ホール

講　師　村山吉廣 先生

『忍藩藩儒芳川波山の生涯と詩業』

受講者三百名

定例講座

四　月「孟子」　荒井　桂先生
五　月「孟子」　荒井　桂先生
八　月「行田市漢字文化講演会」
　　村山　吉廣先生
九　月「孟子」　荒井　桂先生
十　月「孟子」　荒井　桂先生
十一月「孟子」　荒井　桂先生
※行田ケーブルテレビにて放映
（内容）進脩塾の目的、講義、受講者の感想、今日の論語から

素読教室

日　時　毎月第一，第二，第三土曜日　午前九時三十分～十一時三十分
場　所　行田市郷土博物館講座室
対　象　行田市内低学年児童（四才～八才まで）23名
講　師　田代敬二、水野孝市、奥田七寿先生
　　論語・漢詩・俳句の学習

②「第二十四回・浮城のまち行田少年の主張大会」優秀者表彰

日　時　平成二十一年七月二十五日(土)
会　場　行田市教育文化センター「みらい」ホール
発表者　市内小・中学校児童・生徒、父兄等
　　二五〇名参加

本会、松平 忠昌 会長より記念品を贈呈した。

③第九回「三端懇話会」

日　時　平成二十一年八月二十四日(月)
会　場　東京霞ヶ関ビル三十四階霞会館
講　師　天野　亨先生
聴講者　行田市内の中・高校生20名参加

本会から、松平忠昌会長、田代敬二、山本憲作、矢澤大和各理事、木暮照子、福島伸悦各評議員、遠藤初枝事務局員が出席された。

④第七回読書推進学習会

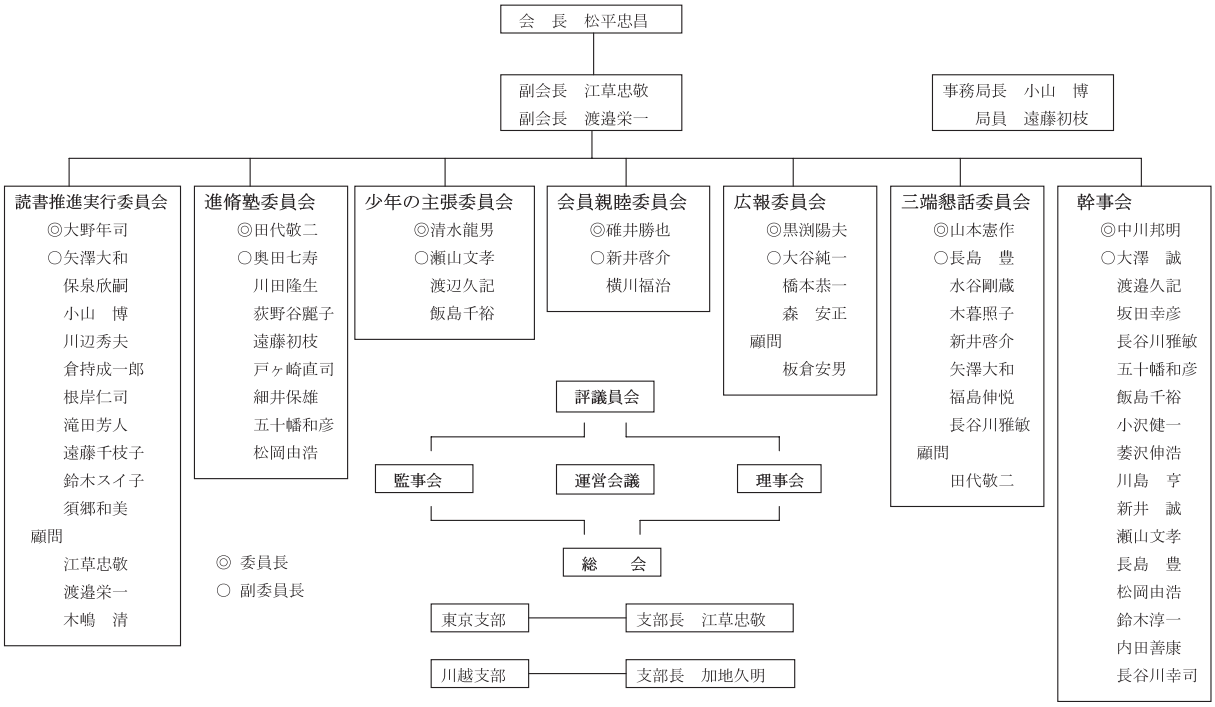
読み聞かせボランティア
スキルアップ講座と交流会
～科学絵本と楽しく科学あそび～

日　時　平成二十一年二月八日(日)
　　午後一時三十分～四時
会　場　行田市教育文化センター「みらい」第一学習室
講　師　代田みち子先生（科学読売研究会運営委員、国立やまびこ文庫主宰）
受講者　五十八名

先進地視察について

日　時　平成二十一年十一月六日(金)
場　所　長野県茅野市
内　容　茅野市の市民と行政が一体で行う読書推進の研修
参加者　大野委員長、渡辺栄一、小山　博、倉持成一郎、遠藤千枝子、鈴木スイ子各委員、遠藤事務局員

（財）忍郷友会・運営組織図



運営会議開催

第一回
日時　平成二十一年六月九日㈫
午後六時～八時
場所　本部会議室
議題　1）総会出席状況について
2）会員増強について
3）事業推進について

第二回
日時　平成二十一年七月三十一日㈮　午後六時～八時
場所　本部会議室
議題　1）会員増強状況について
2）生涯学習フェアについて
3）向島百花園にて懇親会の件

第三回
日時　平成二十一年十月二十六日㈪　午後六時～八時
場所　本部会議室
議題　1）二十三年度以降の事業と予算について
2）二十二年度総会日程について
3）その他

4、慶　弔

5、会員増強対策

新入会者紹介（敬称略　入会順）

紹介者（小山　博）
・北上　博
行田市行田四―五
武蔵野銀行行田支店支店長
・佐藤　良明
行田市向町一八―一五
群馬銀行行田支店支店長
・冨田　久雄
行田市埼玉五四三五―一一
紹介者（田代　敬二）
・大嶋　康三
行田市忍一―一一―一〇
・柳瀬とし子
行田市長野一七七八―一〇
・川島　清実
東京都渋谷区笹塚一―一二―六
・黒川　良子
北埼玉群騎西町大字牛重七一―二
紹介者（遠藤　初枝）
・田生　泰子
行田市栄町五―一〇
紹介者（渡辺　栄一）
・小林　晴夫
南埼玉郡菖蒲町三箇菜七二〇
紹介者（岩崎　安裕）
・片桐　章雄
東京都江戸川区平井四―二三―七
紹介者（柳瀬とし子）
・木村　洋子
行田市駒形一―二一八
紹介者（小菅　克祥）
・野口　浩一
行田市宮本八―一一

原爆忌　木嶋　清

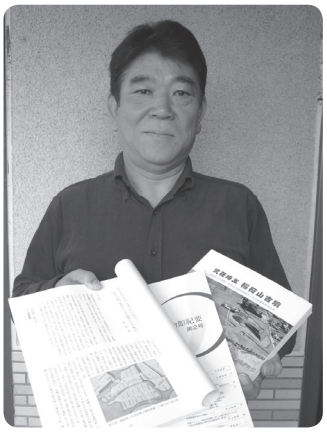
部屋々々の時計正せり原爆忌
雲の峰利根に睨みを走らせる
秋天に点を打ちたるグライダー

清水　孝男

三山の泰然として水澄めり
武蔵野の古墳九基や月の秋
海遠き両毛三山鰯雲

わたしの忍藩人物事典刊行への取組み

県立嵐山史跡の博物館学芸員　若松良一



今年度から会員の仲間に加えて頂いた若松良一です。埼玉県教育委員会の学芸員職で、現在は県立嵐山史跡の博物館学芸担当の総括をしています。学生時代に八幡山古墳の発掘に加わった時から起算すると、行田とは三〇年ほどの御縁があります。

一八年前、引越してからしばらく、休みの日に町の至るところを歩き廻って、歴史ある行田の栄枯盛衰の跡を尋ねてみました。行田は忍十万石の城下町といわれているが、果たして武家屋敷は残っているのか？そんな素朴な疑問から私の忍藩史研究は始まりました。平成一六年三月、電話番号簿と分限帳を手掛かりに、忍藩士族と思われる方々に郵送でアンケート調査を開始しました。そのうち二割ほどがヒットし、私の訪問調査を受け入れてくださる方もありました。なかでも斎藤準一さんは逸早く調査の協力を申し出てくださり、敷居の高い（たぶん私の思い込み）御家への口利きや案内を何回もして頂きました。また、平成一九年の夏、桑名・大矢知への調査旅行に斎藤さん、二味　宏さん、わたしの3人で出かけたのも楽しい思い出です。

さて、忍藩士族の畠山恒雄さんは御先祖が桑名から忍へ移って以来、一六〇年間、天満の拝領屋敷（もちろん建物は建替えられていますが）に住み続けられている数少ない御一人です。初租は畠山義純という人物で、畠山重忠が滅んだ後、その名跡を継いだ人物です。足利家の一族として室町時代には管領を勤めた家柄で、系図が残されていたため、他の史料と比較検討の後、「中世名族の末流　忍藩畠山氏研究（一）」として平成二〇年三月に論文発表させて頂きました。続編の（二）も解読を依頼されていた分家筋の畠山晃司郎家に伝わる勤書の公表を兼ねて、平成二一年三月に発表済みです。

畠山さんをはじめとする忍藩士族の方々の御家に伝わる古文書の解読を続け、桃林寺・蓮華寺・成正寺・専勝寺・正覚寺・大蔵寺・天眼寺などの墓誌調査の成果と併せてデータ化する過程で、『忍藩松平下総家人物事典』の刊行という大目標が生れました。すでに石島薇山、森尾玉津、大沢俊吉、小島慶三などの先学が発表している研究成果などもコンピュータに取り込んで、忍藩ゆかりの人物に関する蓄積データは千五百名を突破しました。

人物データは家中歴代の人物・政治家・行政官・教育者・軍人・法曹・警察官・実業家など、ほぼすべてのジャンルに渉っています。忍藩士及びその子孫の才能の非凡さと努力の跡を物語っています。近年、忍藩人物誌を講演によって広める機会を頂くようになり、昨年一〇月一九日には忍行田公民館において「明治の行政官・伊藤　榮・古市直之進・村田譲吉・」、本年二月二二日には熊谷高校同窓会幹事会の講演会で「忍藩人物伝①」を、五月二四日には行田市退職校長会において「気骨の教育者・村上多熊・古市直之進・村越三千男の生き方・」を発表させて頂くことができました。

この膨大なデータは私物化してしまっては意味がありません。本格的なデータブックとしての忍藩人物事典と、主要な人物をピックアップし、忍藩士族の歩んだ道を概観できるような普及本の二冊を刊行することがわたしの最終目標となりますが、資料についての御教示を含めて皆様の御支援を賜りますよう、心からのお願いをし、結びとさせて頂きます。

〝全国区〟の行田の民俗

前行田市郷土博物館館長　大友　務

〝全国区〟とは大きく出たな、とお思いのことでしょう。これには訳があります。

私は永年、行田所在の博物館施設に勤めさせていただき、行田への愛着は自他ともに認めているところな

ので、「行田は、こんなにすごい所なのだ」と言っても、話相手に・こいつは行田びいきだから…・というような顔をされるのが落ちなのであります。

そこで今回は・私が・ではなく、全国的な視野で書かれた本や事典で行田を注目している実例を挙げて、決して私一人の思い込みではないことを実証したいのであります。

行田は農民芝居が盛んでかつては十一座が活躍していました。しかし「衰退の一途をたどり、今日ではその数も少ない。福島県南会津郡桧枝岐、山形県酒田市黒森、埼玉県行田市、長野県下伊那郡大鹿村、福岡県甘木市など…」と岩崎美術社刊『民俗の事典』は五大伝承地の一に数えています。

下中条、野それに現在は中断していますが下須戸の獅子舞は「昔、洪水のときに獅子頭が流れてきたのが獅子舞の起源」と伝えていますが、民俗学者北見俊夫先生は「利根川流域には竜頭形式の獅子頭が目立つが、洪水の折に流れ着いたとする伝承をもつものが多く、河川流域文化の性格をよく表している」と日本書籍刊『川の文化』で注目されておられます。下中条、長野、若小玉、馬見塚の獅子舞は鐘巻という演目を伝承しており、能の「鐘巻」、歌舞伎の「京鹿子娘道成寺」のモチーフを獅子舞に取り入れた特筆すべき芸能といえます。

若小玉獅子舞保存会による獅子舞“鐘巻”

また庚申懇話会編『日本石仏事典』は「在来の庚申塔の表面を削除して塞神の文字を刻んだ塞神塔が埼玉県行田市周辺に多い」と庶民信仰史の研究上、貴重であることを指摘しています。

忍郷友会百年を過ぎ　新たに思う

静岡県賀茂郡河津町在住　倉田耕一

現在世間では子供の少子化、子供の教育、子供の躾け等が話題になっている。食料、核実験、環境問題などにも心を痛め、また、高齢者の問題なども多くの人の関心があつまっている。

おりしもＮＨＫ大河ドラマが放映されて注目の上杉家とも関わり深い縁が、歴史の重要さを再認識するチャンスではないか。

行田市の活性化を考え一人でも多く会員を募り、忍郷友会が作られた時の趣旨を思い、会を充実させて東京、行田の寺院に入会を勧め、忍郷友会の若返りをはかりたい。

行田にはいろいろの歴史があり、教育文化にも熱心である。昔から「行田の足袋」という産業もあって、東京への距離も短く何事にも便利な位置にある。その外にも有名な蓮、鉄剣、古墳群、石田三成不落の水城などといろいろな歴史と文化に満ちあふれている。子供に関しての熱心さは類がない。

歴史と文化財の行田を世界遺産に向け、マスコミにアピールして世界に向けて発信して欲しい。現在の忍郷友会の若返りをはかり、発足当時の趣旨が失われることの無いようにと願っている。今、若い世代の方々が墓参りにきて、お参りだけで帰られる方々がほとんどだと思う。次の世代に訴えるため、谷中、行田のお寺より、発進して頂きたい。

忍郷友会の会員の方々にも多数参加してもらい、行田の活性化に一層協力して世界遺産の認定が一日も早く認められることを願っている。

感謝と近況

理事　古市　實

忍郷友会平成21年度総会に、久しぶりに出席させて頂きました。関西に居る関係で、日程がどうにもならない以外は極力参加させて頂くつもりでいます。今回は事前に、田代敬二さんからお電話を頂ました。

行田市制施行六十周年を記念して、祖父 古市直之進が亡くなる数日前に歌った「行田名物ラッパ節」を復元して皆さんに披露したいとの事でした。またその数日後、三味線で唄ったラッパ節のCDと歌詞を郵送して頂きました。

早速聴きましたところ、三番までは承知していたのですがそのあとは、田代さんが補作されて、名物水城公園・火祭り・行田蓮にちなんだ三歌詞が加えられ、重みのある歌詞となっていたので有ります。全く良く出来ているのに感心致しました。総会の当日はご婦人多数のご出演により、新しく大嶋師匠の振付けられた「行田ラッパ節」が舞踊、三味線、歌の三味一体で盛大に披露され、大喝采を博したのであります。

これに先立ち懇親会会場にて、この歌詞を大書した額が松平会長より私に贈呈して頂きました。全く光栄の極みで、先祖の遺風を讃えて頂き感激いたすと共に、このような企画をされた田代さんをはじめ会長、会員、ご協力頂いた皆々様に感謝いたす次第であります。

祖父 直之進は明治二十四年から三十二年、更に大正二年から十年迄、五代十六年間町長として、名誉職を務め、私が五才の時に亡くなりました。その年に大阪にて父 修次（次男　昭和五十九年他界九十四歳）が豊田自動織機の豊田喜一郎さん（トヨタ自動車創業者）の援助でメッキ工場を創業して以来今日まで、同じところで事業を続けており、創業82年なります。当時伯父 古市 勉（長男）が三井物産に勤めていて、豊田佐吉さんの発明した自動織機を本場の英国に特許売却の交渉で、常務で長男の豊田喜一郎さんと共に渡英したことで親しい間柄でありました。その関係で、父も援助を受けたのであります。伯父も昭和九年に豊田喜一郎さんの支援により、兵庫県で紡織機の製造を行っていたのですが、父と同じ年の九十九歳で天寿を全うしました。二人とも、郷友会では永年お世話になりました。

私も来年三月で満八十八歳になります。忍郷友会に初参加は昭和十七年、法政大学在学中に九段の軍人会館の総会に伯父に連れられて出席した記憶が有ります。その翌年学徒動員で近衛歩兵三連隊に入隊し、その後航空隊を志願、宇都宮飛行学校で操縦訓練を受け、台湾南端の佳冬と彰化飛行場で戦闘訓練後、鹿児島知覧で編成された部隊と合流して熊本菊地飛行場にて戦闘訓練をしておりました。昭和二十年の正月は熊本で迎えたのですが、三月になりましてから特攻隊編成が始まり、四月に岐阜各務原東飛行場に移動して、専ら教官として特攻攻撃の飛行訓練と後輩の指導教育に当たっていました。その間次々と振武特別攻撃隊要員の発表が為されていました。

幸いなことに、当時は特攻機が不足で有った為に満州奉天、立川、熊谷などにある戦闘機を岐阜まで空輸する命令が出たのであります。六月から七月にかけて殆ど部隊に居なかったので、奉天から帰った時は、各務原飛行場もB二十九の爆撃を受けた後であり、特攻要員も多数知覧に行っていました。熊谷飛行場に行った時には、行田に疎開していた母や妹、弟達には逢えなかったので、空から低空飛行で二、三度旋回したのも思い出のひとつであります。

八月の終戦残務整理を済ませ、焼夷弾で半壊した自宅と工場に戻ったのが11月でした。既に六十四年の歳月が過ぎ去り、これも運が良かった

懇親会でご披露されたラッパ節

のと皆々様のお蔭と感謝しています。

毎年同期が東京に集まって、散った仲間や遺族と共に霊を慰めています。行田矢場にあった祖父の居宅と田畑は、馬場市長時代に行田市に寄贈しているので、両親と先祖のお墓だけは桃林寺の住職 中川忠昭さんのところで守って頂いております。

郷友会の会合の節や川越芳野工業団地にある当社埼玉工場に行く際には、行田に立寄り墓参をしています。

私が忍郷友会に出るようになったのは、昭和三十八年頃からであります。行田に青年会議所が設立された年にOBとなり、若干時間が取れるようになったせいであります。

井上啓子先生と5人の踊り子さん
前列中央が振付けをされた大嶋幸子先生

やがて半世紀となりますが、時代と共に老齢化も進み、新幹線で行田に来るのも便利になりましたが、東京よりは少し遠く感ずるようにもなりました。

現在、近畿埼玉県友会の会長を拝命して十八年になります。上田知事とは大学の同窓生で年に二、三度はお目にかかっております。昭和二十九年に創立されて今年は五十五年になります。残念なことに経費節減で、今春三月末をもって、埼玉県大阪事務所も閉鎖されることになりました。当会の事務局も当社内に置くことになりました。行田市出身の山野壽彦さん（毎日新聞出身・高速オフセット会長）もおり、行田に工場を持つ明和グラビアの大島康弘会長も私の前に十二年間会長を務められました。行田出身の方も数名おられます。郷友会のお世話が充分出来ないので、県友会で頑張っております。どうぞ皆さんのお知り合いで、在阪の方がおられましたら、ご紹介頂ければ幸いです。

忍郷友会も今後の運営は大変だと思います。財団法人として検討すべき問題も多く、会長をはじめ、役員の方々、会員の皆様のご苦労をお察し致します。良き方向に進まれ、益々にご発展をすることを祈り、感謝ご報告を申し上げます。

行田名物ラッパ節

作　古市直之進
補作　田代敬二
唄・三味線　井上啓子

こちらの名物何じゃいな
日本一の行田足袋
酒は枡川日本橋
鯉と鰻の舌鼓

こちらの名物何じゃいな
奈良にも勝る行田漬
菓子は浮城おこしにて
昔武勇の名を残す

こちらの名物何じゃいな
忍の城跡東照宮
鐘と大仏大長寺
松は謙信舟繋ぐ

こちらの名物何じゃいな
三成さんを苦しめた
水攻めしのぶ忍沼は
水城公園鴨の群れ

こちらの名物何じゃいな
からみ大根すみつかり
今は火祭り子さずけの
紅蓮の炎天焦がす

こちらの名物何じゃいな
一千年の眠りから
目覚めし乙女紅津子の
ロマン伝える行田蓮

作者の古市直之進翁は、忍町時代の第二・三・四・九・十代の五代十六年二ヶ月町長をつとめ治績面で大いに功績を残し、名町長といわれた方です。昭和二年、亡くなる三日前のこと、知人の〝忍の家〟（八幡町やなせ）を訪れ、芸妓数名を呼び自作のラッパ節を歌わせて上気嫌であったといいます。
今般行田市制施行六十周年に際し、そのラッパ節を復元（三味線と唄）し、踊りを振り付け、その後の名物（水城公園・火祭り・行田蓮）を補して行田名物ラッパ節とし、先人の遺風を讃えるものです。
平成二十一年六月

俳句

秋思　榎本　晃三

満天の星をとりこむ老い構へ
あたふたとけふの夕餉や秋刀魚やく
世の流れ秋霜ふかくとどめをく

松岡　圀男

夕すげの香る儚い命かな
我が庭の主役は今は猿すべり
谷若葉奥より渓流響きけり

鈴木スイ子

鉄錆の浜のドックに秋の風
校庭の朝霧の中声動く
春耕の真中の一軒嫁来たる

三島　務

蔓草に負けじと立つや杉木立
今年竹われに足らざるものあまた
夏草や声なき声の長屋門

福島　伸悦

竹伐りて日当たりうれし曼珠沙華
石蔵に皆誘いけり赤とんぼ
展望台ゆらゆら揺れる稲アート

木村　義

もののふの爾霊の山や萩哀し
暮れゆける刻の早さや稲雀
桔梗咲く釜山の港遥かなり

清水　孝男

刺かくす薔薇に愛憎またかくす
遺伝子の血はあらそえず半夏生
昼暗み為すことあまた七変化

阿部秀二郎

傷心になほ責果す皐月かな
朴石に淡き石斛人知れず
白樺や鉄砲虫のなすがまま

今井　福司

源流や構萩たれて小鮒寄る
川狩るや水中とびし川鵜かな
我袖に素直な蝶や追いがたし

平井ユリ枝

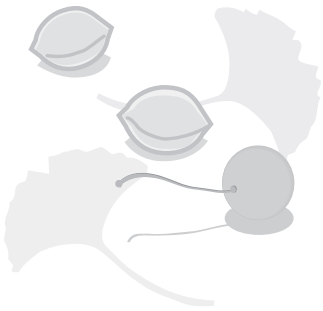
何ごともなくて柿むく日和かな
おくびにもださぬ秘ごと春どなり
石けりの一ぬけ二ぬけ秋夕焼け

遠藤　初枝

気兼なき独り炬燵にくつろぎぬ
母と娘の旅の話や奢我の雨
職を退き一期一会の野点席

増山　忠男

春日社に鳥の合唱秋うらら
国破れリンゴの唄に心満つ
古民家も木犀と共に生きにけり



短歌

両性具有の如く　木嶋　清

利根川と荒川つなぐ導水路
今も威を張る城攻めの土手
風に舞い風に逆らう赤とんぼ
群れ居て己失はぬなり
歌を詠み俳句をひねり五十年
両性具有の如く生き来し

喪　失　榎本　晃三

さし向かふ夕べに薫れ山百合の
はな遥かなる峡のながれに
「哀愁」をふたりで観た日のディナーより
いつしか君は何くわぬ顔
壊れかけた駅舎のベンチできみとみた
夢をともしぬ黄昏の灯よ

井上　啓子

ご赦免の船待つ人の唄なれど
調子一本下げし「秋の夜」
悔いありて泣くを夢路のちちははは
許したまいて我をいだけり
三人の日となりたるを春彦と
名づけし秋に生れし姪の子

鈴木スイ子

縮緬の着物ほどきてお手玉を
作りて母を偲ぶ春の夜
冬ざれの父母の墓参の金盞花
生けて華やぐ午後のひととき
廃校の校舎に今年も蔦若葉
日々に壁面覆いつつ伸ぶ

平井ユリ枝

打ち寄せる波とたわむれ秋の海
遥かかなたに思いをよせて
漕ぎいでし大海原に何おもい
一羽のカモメ帆先にとまり
懐かしき松島の海思い込め
兄と楽しむすこやかなるを

川柳

小沢　誠邦

目標は白寿とすればまだ遠い
幸せは今日も元気と書く日記
肩書きをはずしてわかる真の友
天下り無くして先が詰まりだし
やり直ししてみようかなまだ傘寿
衰えを秘密にしている見栄っぱり
戦中派草食男子に腹を立て
何故だろう元気出てくる夜の席
気がつけば今日も老舗の灯が消える

遠藤　初枝

あら変ねこの十五号小さいわ
アラフォーと格好つけても四十肩
本日はサンマとドルが九十円
ゆったりと最後まで寝る講演会

江利川毅氏厚生労働事務次官を退官され人事院総裁にご就任

本会評議員江利川毅氏は、本年七月二十四日付けで厚生労働省事務次官を退官されました。その後突如政府から人事院人事官就任の要請があり、国会の承認を経て十一月人事院総裁にご就任されました。

江利川氏は行田市に生まれ、東小、長中，熊高、東大法学部に学び、卒業後昭和四十五年厚生省に入り、内閣府事務次官、日興フィナンシャル・インテリジェンス理事長を経て、皆様ご存じの通り、平成十九年八月再度官界に戻り厚生労働事務次官に就任されていました。まさに激動の時期に政府行政の要職にあって重責を担ってこられ、その功績は斯界から非常に高く評価されています。

このたび退官を記念して、行田市長をはじめ地元有志たちの発起による「江利川毅氏退官記念講演会並びに懇親会」が市内で開催され、百四十人ほどの市民と友人が参加しました。江利川氏からは「厚生労働行政の再生を目指して」―組織ガバナンスのポイント―と題して講演があり、官界、産業界そして市民団体等に関わる参会者の皆様にとって、大変有意義な講演でありました。

私たちは行田市民そして忍郷友会員として最高の誇りを感じております。ますますのご健闘をお祈りいたします。

木暮照子さん〝行田市蓮の大使〟に

当会評議員木暮照子さん（工芸作家・行田市教育委員）が市の天然記念物行田蓮を通じ、行田市の広報活動を担う「行田市蓮の大使」に選ばれました。

木暮さんは、これまでにも「蓮フォーラム」で講師を務めたほか、蓮を生かしたまちづくりをテーマとした「蓮サミット」ではコーディネーターも務められました。また本年8月にはご自身の作品をまとめた木暮照子人形作品集「蓮花物語」～悠久の時を巡る～と題した写真集を出版されるなど多方面でご活躍されております。ますますのご健闘を期待しております。

御名刺掲載欄

（順不同）

行田市

市民の皆様と共に築く行田「元気な行田」の実現に向け、皆様のご理解とご協力をお願いします。

行田市議会

財団法人忍郷友会
会長
松平忠昌
〒214-0038 川崎市多摩区生田六―一五―三六
☎〇四四―九五五―九三三六

特別会員
白河藩阿部家二十二代当主
阿部正靖
〒146-0085 東京都大田区久が原五―十七―七―二〇一
電話 〇三―五七四八―四九三三

株式会社 ケイマス
代表取締役
黒渕陽夫
〒361-0074 埼玉県鴻巣市赤城台三六二―二一
TEL〇四八―五六九―二二五一
FAX〇四八―五六九―二二二一

公認会計士
奥貫健一
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷三―一―十五―四〇一

天眼寺住職
東瑞芳
〒110-0001 東京都台東区谷中一―二―十四
電話 〇三―三八二一―七七一八

小川工業株式会社
代表取締役会長
小川雅以
本社 埼玉県行田市桜町一丁目五番十六号
電話行田（〇四八）五五四―四一一一番
ファクス（〇四八）五五三―三四四四番
東京支店 東京都港区新橋二丁目十六番一号
電話〇三（三五〇三）一一九二番

棚沢書店
古本買入
棚沢孝一
〒113-0033 東大正門前
文京区本郷六―一八―一二
☎〇三―三八一一―〇三四一

大野建設株式会社
代表取締役
大野年司
〒361-0023 埼玉県行田市持田三丁目四番三号
電話 〇四八（五五三）〇一〇〇

財団法人若葉会
若葉保育園
園長
保泉欣嗣
〒361-0073 埼玉県行田市行田十一―十
電話（〇四八）五五六―二七九七

榎本晃三
〒361-0057 行田市城西四―三―八
☎〇四八―五五四―〇〇三八

ガクヤ株式会社
取締役顧問
小池英輔
〒361-0072 行田市宮本五―十八
☎〇四八―五五三―四一四一

行田市日本中国友好協会
行田市俳句連盟
木嶋清（俳号斗川）
〒361-0001 埼玉県行田市北河原六三〇
電話・FAX（〇四八）五五七―〇二七三

三共印刷株式会社
代表取締役
大谷純一
埼玉県行田市富士見町二―一―三〇
TEL〇四八―五五六―六二〇一

取締役会長
小池聰太朗
株式会社グリーンメイト スクール販売
〒361-0075 埼玉県行田市向町一三番三九号
TEL：〇四八－五五四－七四二一
FAX：〇四八－五五四－七四二五
E-mail：koike@ganbax.com
http://www.ganbax.com

東旭株式会社
代表取締役社長
小菅克祥
〒三六一－〇〇一六
埼玉県行田市藤原町一丁目六－一
TEL（〇四八）五五六－四五五一（代）
FAX（〇四八）五五六－四五五六

進脩塾素読教室
主幹
田代敬二
〒214-0038 行田市行田六－一六
☎〇四八－五五六－三七二八

大岡産業株式会社
代表取締役
大澤誠
〒361-0062 埼玉県行田市谷郷一三二〇－一
TEL〇四八－五五三－〇一二八
FAX〇四八－五五三－二六八一
携帯〇九〇－一六〇二－六一六〇
http://www.ookasangyo.com/

渡辺株式会社
代表取締役
渡辺栄一
〒361-0073 行田市行田一－四
電話〇四八－五五六－三一四八
FAX〇四八－五五六－一二八八
自宅〇四八－五五六－三一四六

曹洞宗　松雲山 長光寺
　　久寶山 興徳寺
　　雲峯山 東泉寺
住職
福島伸悦
（連絡先）
電話 埼玉県行田市下中条一六一九－二
FAX〇四八－五五七－〇九九九
E-Mail kotokuji@muc.biglobe.ne.jp

山本商事株式会社
東京海上日動火災保険株式会社（代理店）
東京海上日動あんしん生命保険株式会社
代表取締役
山本憲作
e-mail：ken@hoken-yamamoto.co.jp
〒361-0074 埼玉県行田市旭町一〇－四三
TEL（〇四八）五五五－二二一一（代）
FAX（〇四八）五五五－三三〇八
http://hoken-yamamoto.co.jp
e-mail：info@hoken-yamamoto.co.jp

羽生モータースクール
代表取締役
五十幡和彦
〒348-0036 埼玉県羽生市大字砂山八〇
TEL（〇四八）五六一－二〇〇八
FAX（〇四八）五六一－一五四七
http://www.motorschool.co.jp
E-mail：hanyu@motorschool.co.jp

『蓮花物語　木暮照子作品集』
マリア書房刊
行田市　蓮の大使
木暮照子
（社）日展会友
（社）日本新工芸家連盟会員
蓮文化研究会理事

株式会社リノン
LINON CORPORATION
代表取締役
新井啓介
ARAI/KEISUKE (Casey)
President
〒361-0038 本社 埼玉県行田市前谷二五
Hoffice：25 Maeya Gyoda-shi Saitama-ken Japan
TEL：〇四八－五五九－〇五〇九　FAX：五五九－三一七九
携帯（Cell）〇九〇－三三四－〇四三四
http://www.linon.co.jp　E-mail：arai@linon.co.jp

有限会社 **高戸環衛**
埼玉県知事登録番号 第5－5105号
貯 第7973号
代表取締役
戸ヶ崎直司
〒361-0062 埼玉県行田市藤原町三－十一－二六
電話〇四八－五五四－一九二〇
FAX〇四八－五五六－二六二七

地元に密着した住まいづくり
株式会社 **ファイブイズホーム**
代表取締役
細井保雄
〒361-0056 埼玉県行田市持田三丁目二番一七号
電話〇四八（五五三）二二二七二

代表取締役
飯田芳幸
yoshi@sakitama.or.jp
株式会社エンボリック　http://www.emborick.co.jp
さきたまインターネット　http://www.sakitama.or.jp
〒361-0001 埼玉県行田市北河原七〇五番地
GPSアドレス　N：36°11′25″　E：139°25′40″
TEL〇四八－五七－三二六六（代表）
FAX〇四八－五五七－三四二一

財団法人忍郷友会
名誉理事
佐藤孝太郎
〒361-0076 行田市天満三－十六
☎〇四八－五五六－一九〇〇

割烹　和可稲
飯島千裕
〒361-0074 埼玉県行田市旭町六－二一
TEL〇四八－五五四－三二三八
FAX〇四八－五五四－三二三三

綿貫守男
〒110-0016 東京都台東区台東一丁目三七番一〇号

小澤企画
各種相談・企画・コンサル
代表　小澤誠邦
〒361-0006 埼玉県行田市大字白川戸七〇二―一
TEL（〇四八）五六四―一一一一
FAX（〇四八）五五二―〇五八二

味工房　那のつ
代表　阿部秀二郎
〒361-0023 埼玉県行田市長野一―三三―一〇
電話 〇四八―五五五―一四五〇

創業　文久二年　伝統の味
割烹　魚豊
橋本恭一
TEL〇四八―五五三―三一一三
FAX〇四八―五五三―三一一四

合資会社　青美矢沢商店
無限責任社員　矢澤大和
〒361-0073 埼玉県行田市行田二十―二十五
TEL〇四八―五五六―三二三一
FAX〇四八―五五六―三七七四

株式会社　倉持商店
紺織製品製造本舗・力王たび代理店
代表取締役　倉持成一郎
〒361-0022 埼玉県行田市桜町一―二十一―四
TEL〇四八―五五六―二九一四
FAX〇四八―五五三―二二八三

《昭和14年創業》
各種自動車・重機・ラヂエーター販売修理
有限会社　小笠原ラヂエーター工業所
代表取締役　中川邦明
〒360-0023 埼玉県熊谷市佐谷田一四三二番地
TEL（〇四八）五二一―三三九五（代）
FAX（〇四八）五二一―三三八四

株式会社　セティアコーポレーション
代表取締役　岩崎安裕
〒323-0028 栃木県小山市若木町二―十一―五
TEL〇二八五―二三―八八三三（代）
FAX〇二八五―二一―三五七七

全国PHP友の会
関東甲信越地区本部
本部長　加藤力也
〒362-0034 埼玉県上尾市愛宕三―二十一―九
TEL/FAX ○四八―七七一―一五八五
E-mail：show-katou@nifty.com

渡辺株式会社
グラフィック事業部
常務取締役　渡辺久記
〒361-0077 埼玉県行田市忍一―五―十―一〇二
電話 〇四八―五六四―六五二五

山本食品工業株式会社
山本正幸
〒361-0025 埼玉県行田市埼玉四八六一
電話 〇四八―五五九―二一一一

行田市の現勢

平成二十一年十一月一日

1 市役所所在地
〒三六一―八六〇一
埼玉県行田市本丸二番五号
TEL〇四八―五五六―一一一一
FAX〇四八―五五六―一七六六

2 市制施行
昭和二十四年五月三日

3 面　積
六、七三七㎢

4 人　口
八七、九八五人

5 世帯数
三三、二七七世帯

6 財　政
二二、八〇〇百万円（当初予算）

7 市の機構
市　長　工藤正司
助　役　羽鳥利明
委員長　保泉欣嗣
教育長　丸山綱男

8 教育委員会
議員定数　二十四名（無所属十八公明二、日本共産党二）
議　長　大河原梅男
副議長　野口啓三

10 議　会

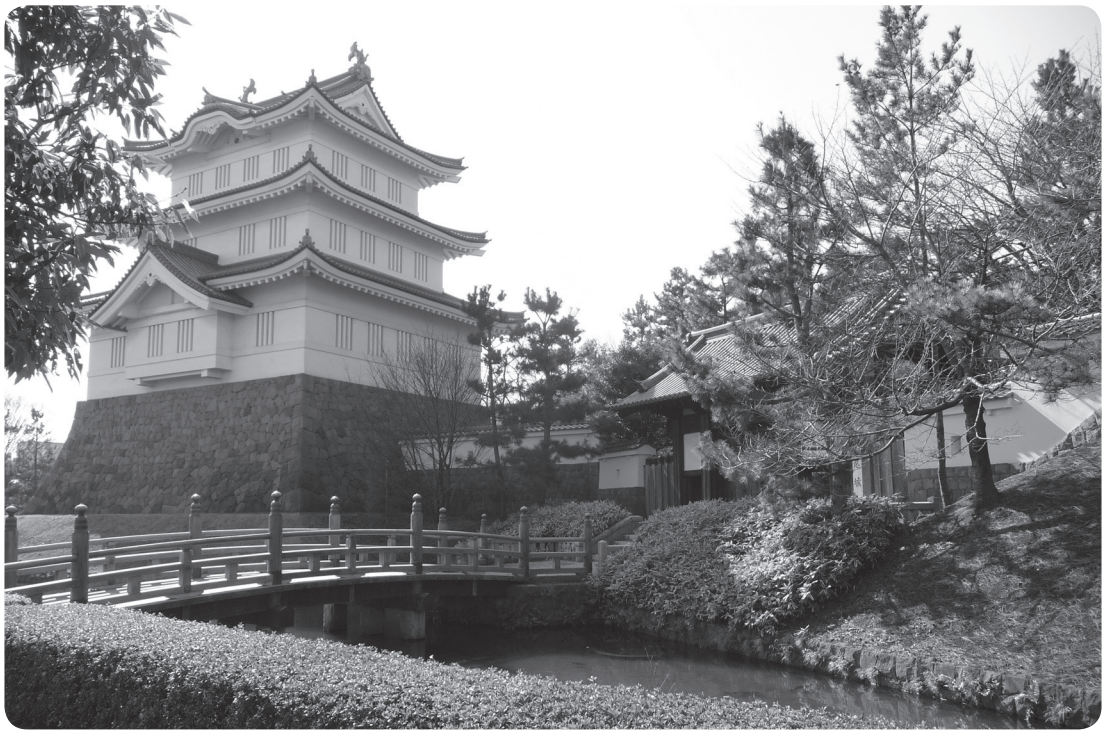
11 学　校
大学　一校
専門学校　一校
高等学校　一校
中学校　八校
小学校　十六校

12 都市宣言
環境衛生都市宣言
人権尊重都市宣言
平和都市宣言
青色申告の都市宣言
交通安全都市宣言
暴走族追放都市宣言
非核平和都市宣言

13 まちづくりの目標
水と緑　個性あふれる文化都市

14 産業経済
製造品出荷額　三、二八一億円（平成十九年）
商品販売額　二、一七七億円
農業粗生産額　四十八億円（平成十八年）
商店数　九二九店舗
工業事業所数　二五四事業所（四人以上・平成十九年）

15 公共施設
さきたま史跡の博物館
教育文化センター
郷土博物館　忍城御三階櫓
産業文化会館・はにわ館
総合体育館・総合公園プール
市民プール・総合公園野球場
資料館・公民館（十六館）
図書館・古代蓮会館
総合福祉会館・商工センター
風土記の丘さきたま古墳公園
忍城址公園（忍城御三階櫓）
古代蓮の里公園
行田市郷土博物館・利根大堰
水城公園・東照宮



編集後記

今年も編集後記を書く時期になってきました。今、国では盛んに事業仕分けが行われ、必要な事業の選定を行うために作業グループが予算とにらめ合わせをしながら行っております。さて当忍郷友会の事業は如何かと思い振り返ってみましたが、どれも大変重要な事業で改めて忍郷友会の担当役員の方々のご苦労とその成果に感謝をしたいと思います。特に最近では漢字教育の大切さがテレビなどでたびたび取り上げられており、幼少時期に漢字に親しませる事の重要さが報道されておりました。

また毎年行われる学力テストでは、当市のホームページによると読書不足が報告され、各分野で問題文から判断して考えることに今後力を入れるとなどの報告が見られました。国語、算数、数学の各分野でも国語力を付けていくことの必要性が大変急務ではないかと考えられました。当会での素読教室、読書推進活動などはそういった意味からしても、時代に即した活動で、今後もその活動に大いに期待したいと思います。

広報委員長　黒渕　陽夫

発行者　財団法人　忍郷友会　会長　松平忠昌
事務所　埼玉県行田市行田五－一〇
（十万石スリーハートビル３F）
TEL.　〇四八－五五六－九〇〇〇
FAX.　〇四八－五五六－九〇〇七
URL/www.oshi-goyukai.or.jp
e-mail/gyouda@oshi-goyukai.or.jp
印刷所　三共印刷株式会社
〒三六一－〇〇二一
埼玉県行田市富士見町二－一－三〇
TEL.　〇四八－五五六－六二〇一
FAX.　〇四八－五五六－六二〇四